

公財) PMF 組織委員会 御中

第 30 回パシフィック・ミュージック・フェスティバル2019
来場者調査 報告書

2020 年 3 月

北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院
研究員 宮部潤一郎

目 次

1. はじめに	1
2. 調査実施及び回収状況	1
2-1. 調査内容と調査票	1
2-2. 調査実施コンサートと回収状況	2
3. 集計結果分析その1 札幌調査結果の時系列比較	3
3-1. 初来場時期	3
3-2. 演奏会来場のきっかけ	4
3-3. 来場形態	6
3-4. 提供情報の認知度、注目度	7
3-5. 情報入手の容易度	9
3-6. PMF 認知度	10
3-7. 舞台芸術の鑑賞状況	10
3-8. PMF に関する意識	11
3-9. フェースシート	16
4. 集計結果分析その2 リンクアップ・コンサートの来場者調査結果	18
4-1. 来場理由	18
4-2. 来場形態	18
4-3. PMF への来場経験	19
4-4. 提供情報の認知度	20
4-5. PMF 認知度	21
4-6. フェースシート	21
5. 集計結果分析その3 道内演奏会での調査結果	23
5-1. 初来場時期	23
5-2. 演奏会来場のきっかけ	24
5-3. PMF の認知度	24
5-4. PMF に関する意識	24
5-5. 演奏会の感想	25
5-6. フェースシート	26

6. 集計結果分析その4 首都圏演奏会の調査結果	27
6-1. 演奏会に関する情報入手	27
6-2. 首都圏での PMF 演奏会来場	27
6-3. 初来場時期	28
6-4. 札幌への来訪経験	28
6-5. PMF に関する意識	29
6-6. PMF の認知度	32
6-7. フェースシート	32
7. まとめ	33
付属資料	35

1. はじめに

PMF 演奏会来場者を対象としたアンケート調査は、2014 年に北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院の学生プロジェクトチームによって実施されて以来、本年度で 6 回目の実施である。時系列の比較が可能となる調査内容として実施することを意識しつつ、札幌以外の道内で開催された公演や首都圏での公演を対象とした調査も実施した。また昨年より、札幌市内の小学生を対象とした取り組みであるリンクアップ・コンサートへの来場者を対象とした調査を実施している。

実施に当たっては PMF 組織委員会の協力と支援を得たが、本報告書は宮部の責任でまとめたものである。したがって、以下の分析結果の解釈や結果に基づく考察は宮部のもので、PMF 組織委員会のものではない。

このアンケート調査の結果から、長くこの教育音楽祭を存続させていくために、今何をすべきかを考え、実行していく際に参考とすべき多くの示唆が得られたと考えている。

演奏会の際に調査へのご協力をいただいた多くの方々に、心から御礼を申し上げる次第である。

2. 調査実施及び回収状況

2-1. 調査内容と調査票

札幌公演の調査では 2014 年以來の調査との時系列比較を可能とする質問項目とした。また、リンクアップ・コンサート、道内公演、道外公演での調査では、各会場の事情に合わせて追加の設問を設けている。本報告書の付属資料として、使用した調査票と設問ごとの単純集計結果を掲載している。

調査票は各会場入り口で配布し、回収は会場内に設置した回収箱で実施した。

なお、2019 年も本調査と同時に経済性調査を実施したが、本報告書では来場者調査の結果のみ報告する。

2-2. 調査実施コンサートと回収状況

2019 年の調査対象コンサートは以下に示す通りである。

札幌公演

日付	公演名	会場	配布数	回収数	回収率
7月13日（土）	ピクニックコンサート	札幌芸術の森・野外ステージ	1,500	332	22.1%
7月21日（日）	PMFプレミアム・コンサート	札幌コンサートホール Kitara	1,385	482	34.8%
7月22日（月）	PMF豊平館コンサート	豊平館	91	64	70.3%
7月23日（火）	PMFリンクアップ・コンサート	札幌コンサートホール Kitara	1,176	276	23.5%
7月26日（金）	第476回市民ロビーコンサート	札幌市役所1階ロビー	700	224	32.0%
7月28日（日）	PMF hitaruスペシャル・コンサート	札幌文化芸術劇場hitaru	1,895	904	47.7%
7月31日（水）	PMFオーケストラ演奏会	札幌コンサートホール Kitara	1,853	708	38.2%
札幌計*			8,600	2,991	34.8%

* 配布の無かった会場に記入済みの調査票を持参された方が1名おられ、回収数計はそれを含めた合計である。

道内公演

日付	公演名	会場	配布数	回収数	回収率
7月15日（月）	PMFオーケストラ苦小牧公演	苦小牧市民会館	1,000	570	57.0%
7月16日（火）	PMFヨーロッパ・アンサンブル 函館公演 アンドレアス・ブラウとPMFウィーンの仲間たち	函館市芸術ホール （ハーモニー五稜郭）	442	232	52.5%
7月23日（火）	PMFアンサンブル江別公演	えほあホール（江別市）	412	237	57.5%
7月24日（水）	PMFアメリカ幕別公演	幕別町百年記念ホール	400	213	53.3%
道内計			2,254	1,252	55.5%

道外公演

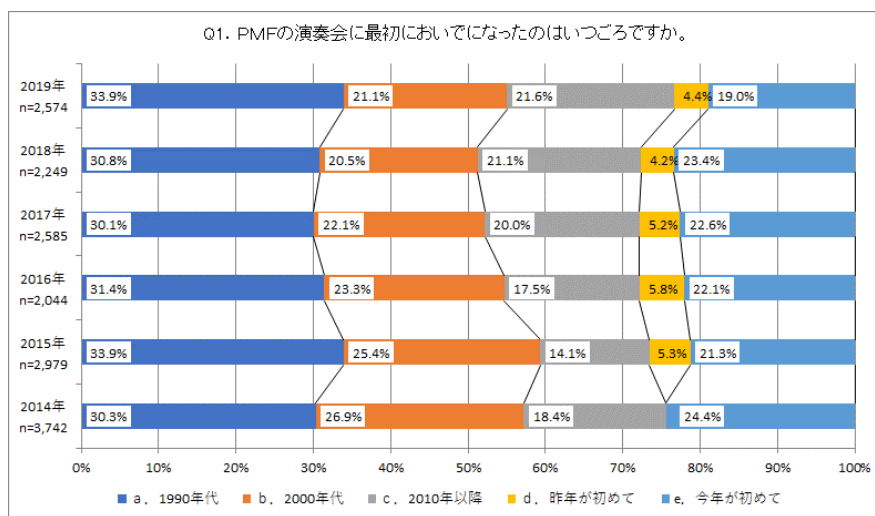
日付	公演名	会場	配布数	回収数	回収率
8月1日	PMFオーケストラ東京公演	サントリーホール	1,615	211	13.1%
8月2日	PMFオーケストラ川崎公演	ミューザ川崎シンフォニーホール	1,485	75	5.1%
道外計			3,100	286	9.2%

3. 集計結果分析その1 札幌調査結果の時系列比較

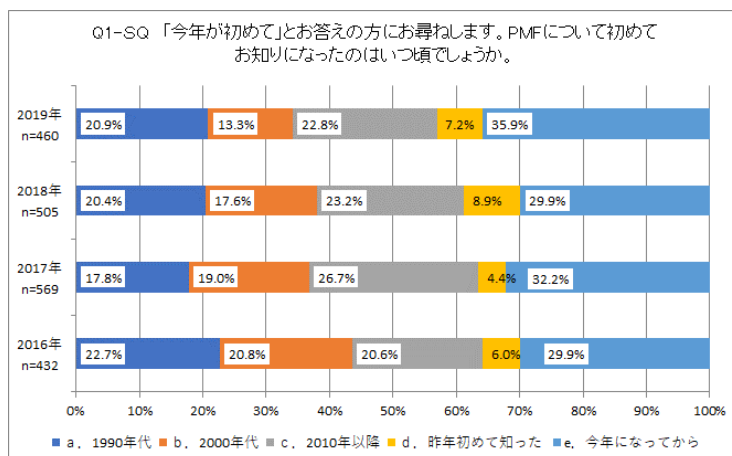
3-1. 初来場時期

毎年必ず尋ねている設問である。2019 年は第 30 回のアニバーサリーイヤーであったために、初来場時期が 1990 年代の比率が 34%と高くなった。長く PMF に親しんできた聴衆が 30 周年ということで演奏会に足を運んだと考えられる。

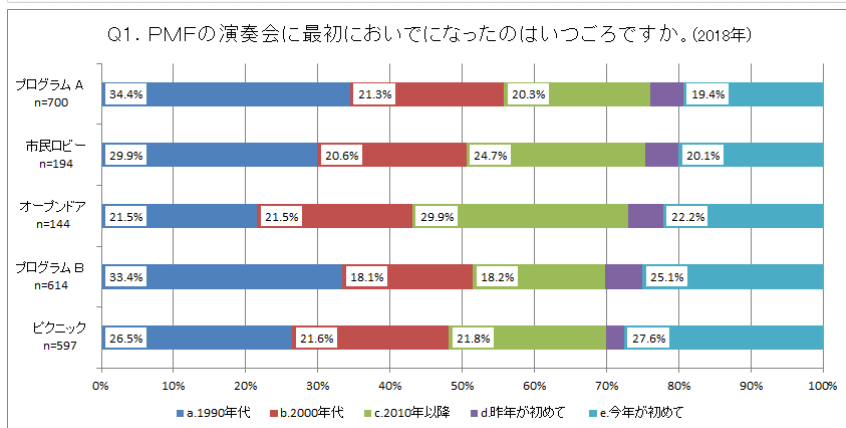
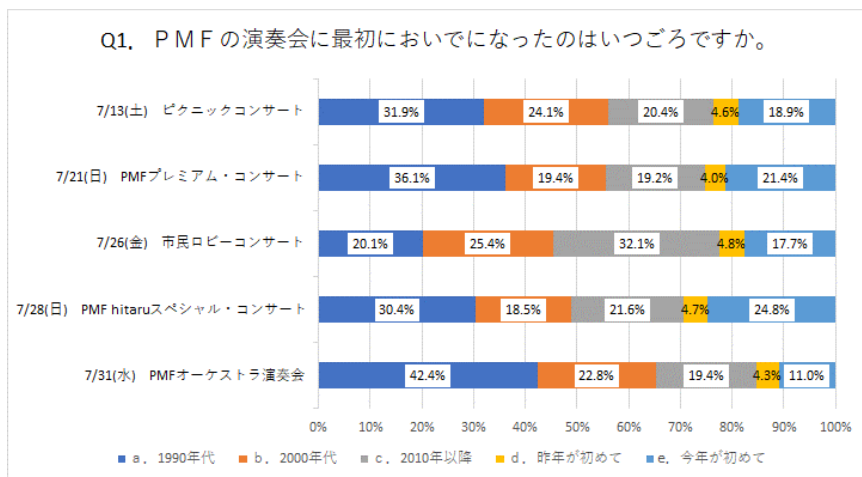
今回が初来場の比率は 19%で、例年 20%を超えている状況に比較して低くなったが、およそ 5 人に一人が初来場という構成に大きな変化はなかった。約 2 割の演奏会来場者が初来場ということで、PMF に初めて直接触れる聴衆を確保し続けることが出来ている。



Q1で「今年が初めて」と回答した回答者に、何時から PMF を知っているかを尋ねている (Q1-SQ)。初来場者の PMF 認知の状況では、2018 年までは概ね均等な構成で推移してきたが、2019 年は「今年になってから」PMF を知り演奏会に来場というグループが 36%を占めている。これも 30 周年記念ということが発信された効果と推測することが出来る。



なお、演奏会別に初来場時期を確認すると、「今年初めて」の比率は2018年ではピクニックコンサートが最も高く、PMFへの入り口としての機能を果たしていたと考えられる。しかし2019年では他の演奏会と比較しても顕著に高いわけではなく、hitaruのスペシャル・コンサートが最も高くなっている。2018年まではピクニックコンサートは札幌で



のPMFの掉尾を飾るイベントであったが、2019年は会期の前半に開催されたことがこのような結果につながったのではないかと推測される。また、オープンしたばかりのhitaruでのオーケストラ演奏会ということで注目を集めたということも考えられる。

3-2. 演奏会来場のきっかけ

この設問は提示された選択肢から一つを選択することを求めた設問なので、最も当てはまる選択肢が回答されている。

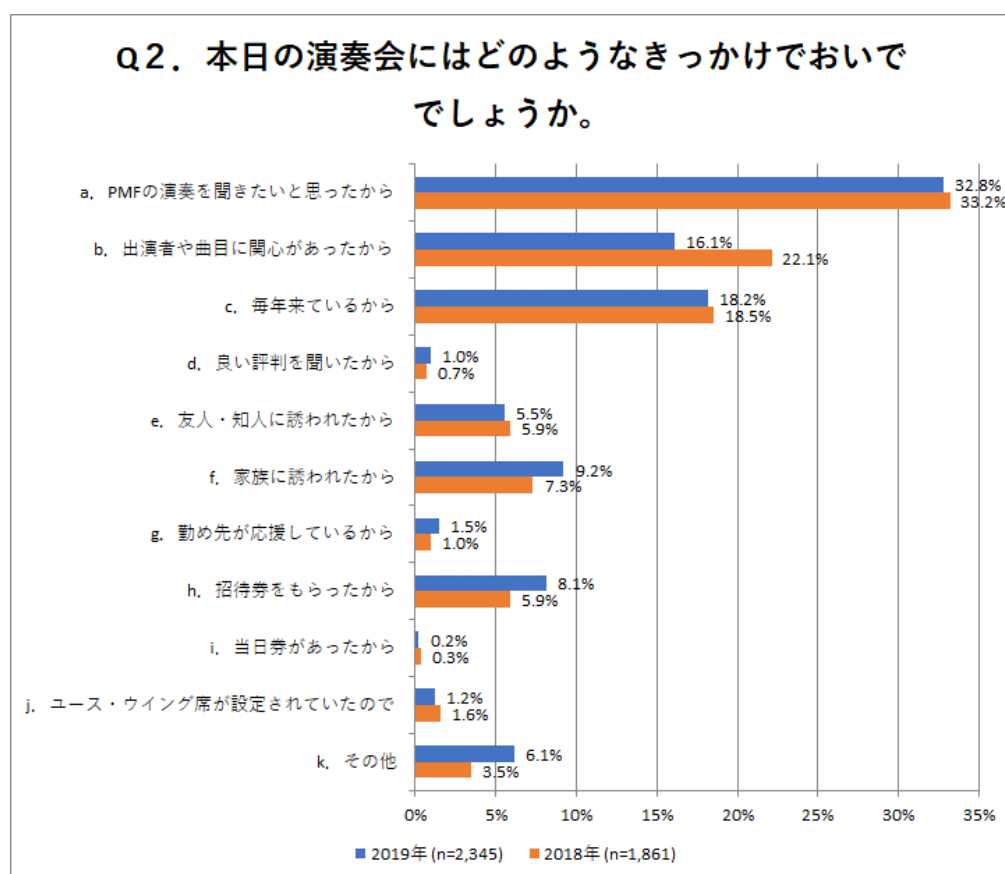
2019年のサンプル全体の集計では「PMFの演奏を聞きたい」(33%)、「毎年来ているから」(18%)の二つの選択肢で50%を超える回答率であり、「PMFを聴きに行く」という行動が定着している。また、2018年では「出演者や曲目に関心があった」とする回答が22%であったが、2019年調査では16%とこれを大きく下回っている。この水準は2017年の結果(10%)を上回っている。2018年はバーンスタイン生誕100年を記念し、第1回以来の五嶋みどり氏のコンサートが実現するなどにより、出演者や曲目に関心が集まった。2019

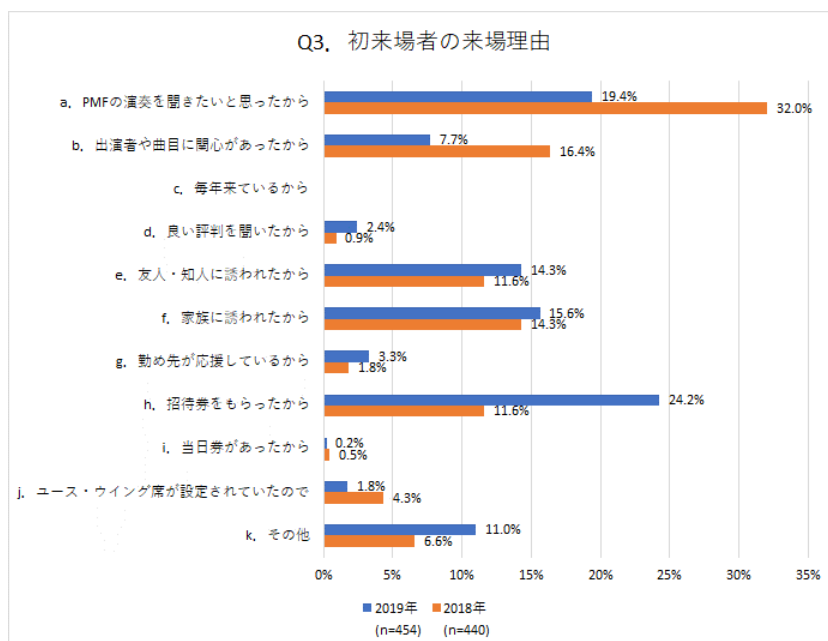
年のマーラー交響曲第 8 番は、クラシックファンに対してはインパクトのある曲目ではあったが、必ずしも一般受けのするものではなかったことが、2017 年 10%、2018 年 22%、2019 年 16%という推移に示されていると推測できよう。

他の来場のきっかけはいずれも 6%以下で、様々な理由に分散している。

2019 年初来場者の来場のきっかけをみると、「PMF の演奏を聞きたいと思った」が 19% に対して、友人・知人や家族に誘われたという理由が 30%（それぞれ 14%、16%）と 1/3 を占め、近い人に促されての来場が主要な来場のきっかけとなっている傾向が強まった。また、招待券の入手が 24%となり、様々なルートでの招待券の配布が、初来場者を演奏会に引き寄せることになっていることが確認できる。このことから、演奏会来場者のベースを作るという観点から、招待券の配布先や配布方法を戦略的に考えることも検討してよい課題と考えられる。

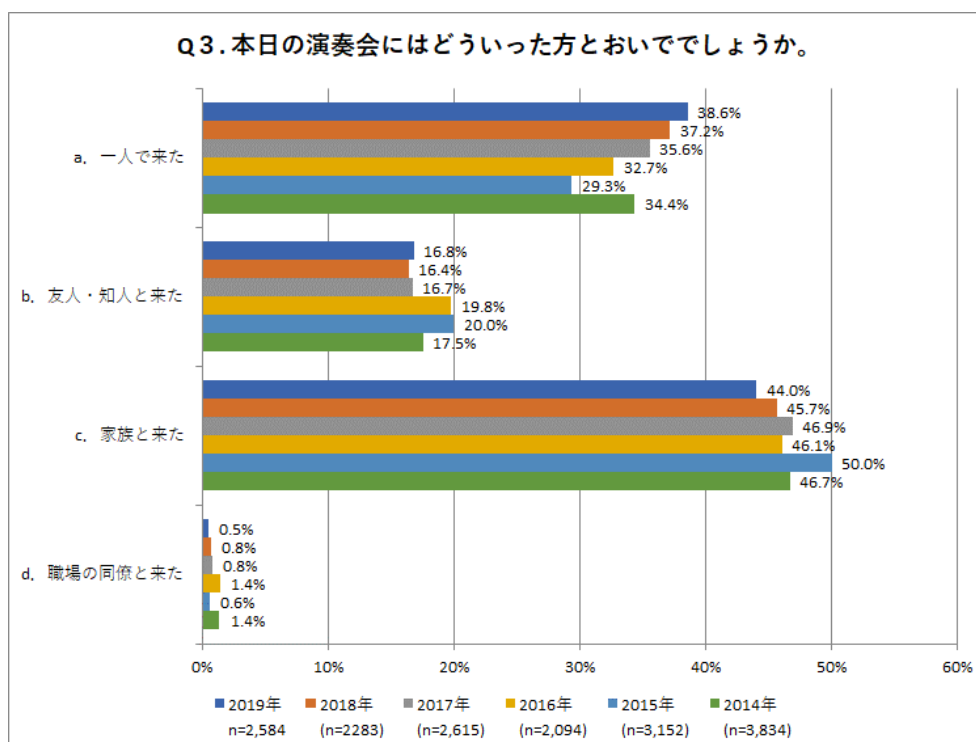
2018 年に初めて設定されたユース・ウイング席は、来場のきっかけとして一定の役割を果たしたと考えることが出来る。





3-3. 来場形態

毎年尋ねている来場の形態を確認する設問ある。「一人で来場」が2015年以降年々増加し、2019年は39%に達している点に注目しておきたい。「家族と来場」が上回っているが、差は年々縮小している。今後の推移を注意してみていく必要があるのではないかと考える。



3-4. 提供情報の認識度、注目度

毎年、開催前から様々な媒体を利用した情報提供・広報活動が行われている。この設問では、まず“PMFに関する情報提供で今年お目に留まったもの／お聞きになったものはどれですか”と尋ね、認識した情報源を全て回答するように求めた。次いで、“この中で特に記憶に残ったものはありますか”と記入欄を設けて尋ねた。この設問は項目選択ではなく、自由記入の回答であったので、特にインパクトの大きかった情報源のみが記入されることとなった。ここで認識度は、この設問への有効回答のうち当該選択肢の比率であり、インパクト度は、当該項目を選択した回答の中で記入のあった比率である。

まず2019年の認識度では、テレビ番組が20%と2018年と比較して大きく上回っている。番組として取り上げられることによる効果を見ることが出来、メディアとしての影響力の大きさを確認できる結果である。

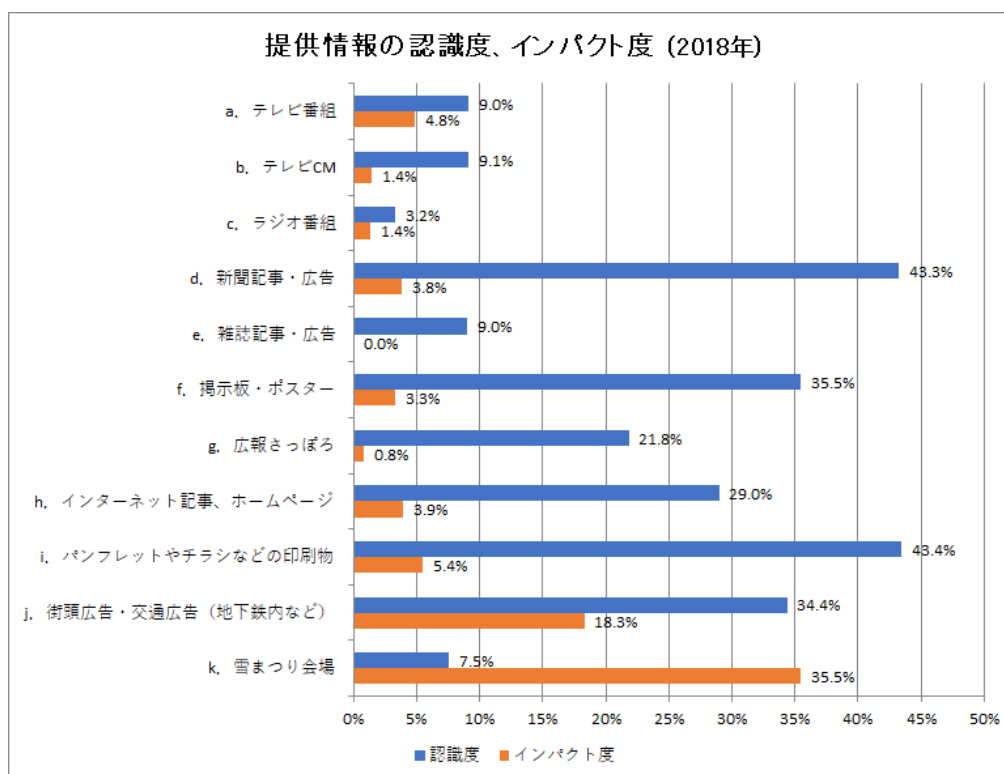
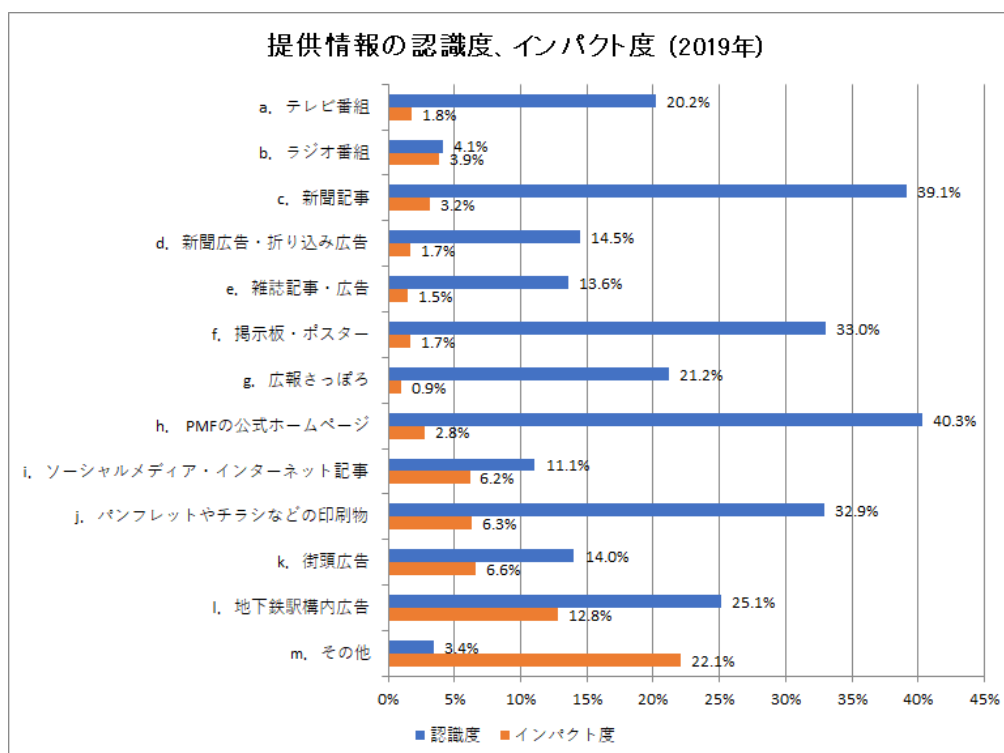
また、新聞記事とパンフレット・チラシなどの印刷物が高い比率であることに大きな変化はなく、情報提供手段としての印刷媒体の重要性を示している。印刷媒体の中で広報さっぽろの認識度が21%と比較的高い点にも注目しておくべきだろう。市内全世帯に配布される媒体として持っている情報発信力を過小評価すべきではない。同時に街頭広告や地下鉄構内広告の認識度が一定の比率を持っていることも、多様な媒体の活用を示すものである。

2018年は雪まつり会場でのPMFのアピールが注目されたが、これは1年限りの特殊要因であった。一方、公式ホームページが40%を超える認識度で最も高い認識度を示している。公式サイトでの魅力的な情報発信を続ける努力が認められているとともに、我々を取り巻く情報・メディア環境の進展の結果が示されている。

インパクト度に関しては、全体的な傾向は2018年の結果と変わらない。この中で、「その他」が格段に高いインパクト度を示している。自由記入欄には多様な情報源が記入されたが、キタラクラブ、札幌駅に設置の駅ピアノ、中島公園に飾られた旗などが特に記憶に残ったものとして指摘された。

この設問の自由記入欄では小中学校に配布されたパンフレット、厚別区で配布されていると思われる「まんまる新聞」が記入されており、情報源として認識され、かつ記憶に残るものとして指摘された。小中学校でのパンフレット配布は、受け取った子供たちが自宅に持ち帰って親の目に触れたことで、演奏会来場につながったことが確認できた。

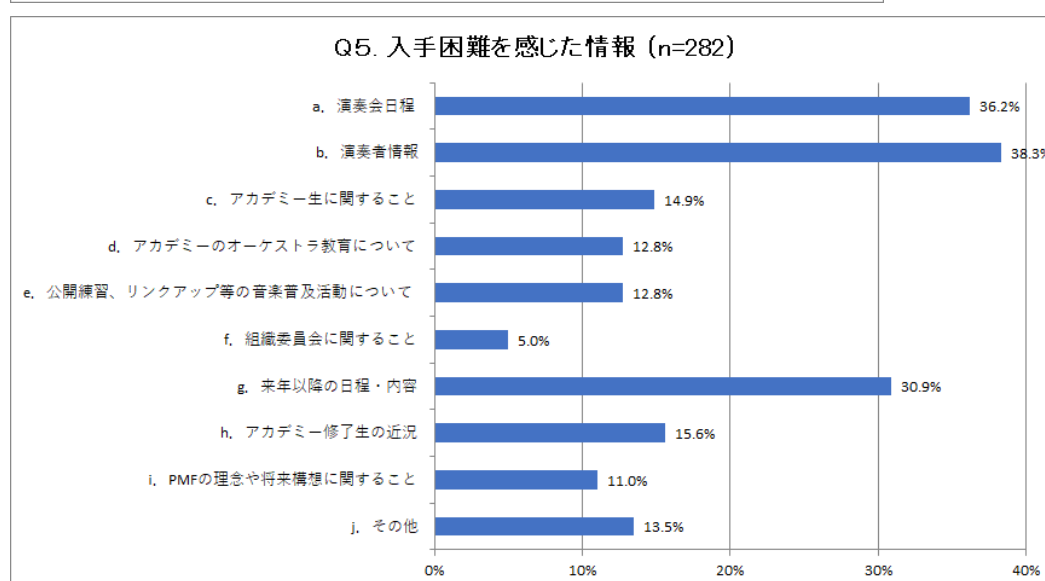
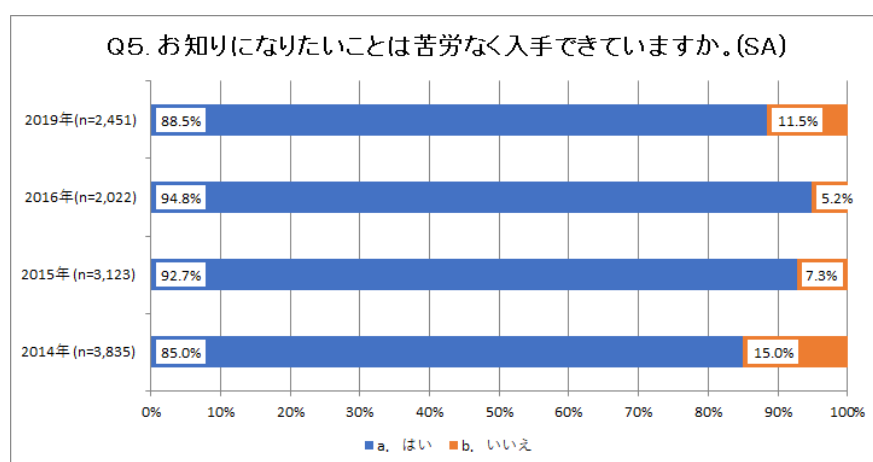
一方、自由記入欄には目に付くものはなかったといった記入もあり、その人の生活圏の中に情報が提示されているかによって受け止め方が異なってくることが推測される。



3-5. 情報入手の容易度

2016 年以來 3 年ぶりに尋ねた設問である。前回調査である 2016 年の結果と比較して、入手に困難を感じる情報があるとする回答が、2014 年の結果である 15%は下回ってるものの、5%から 12%に増加している。

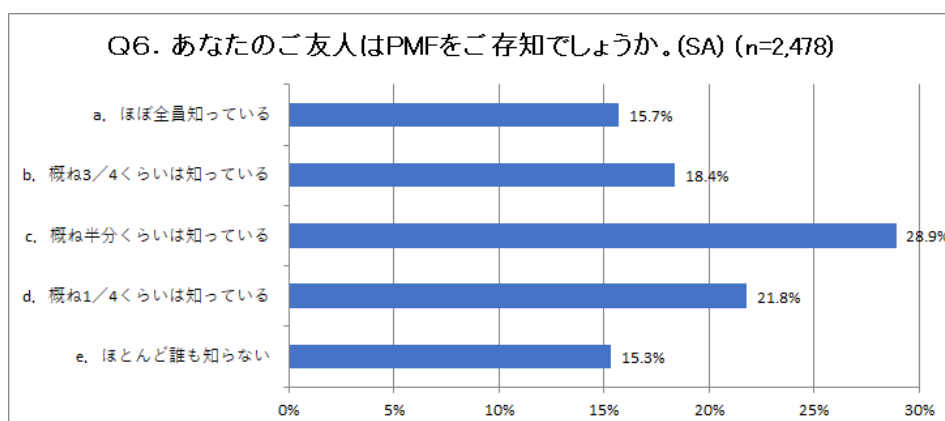
入手が困難と感じた情報として、演奏会日程と演奏者情報と来年以降の日程・内容が指摘されている。来年以降の日程・内容に関しては PMF の企画運営全体に関わる問題であり、プランニング体制の検討の中で考えられなければならない点であろう。その際、中長期的な方向性に対する関心の一側面として次年度以降の開催内容について関心をもたれていることは認識しておく必要があろう。一方、演奏会日程、演奏者情報については、知りたいと思ったときにストレスなしに入手できないと入手困難と感じられてしまう。それは必ずしも情報提供の不備を意味しないが、きめ細かい情報提供に向けての改善努力が求められていることの証左である。



3-6. PMF 認知度

2019 年の調査で初めて設けた設問である。本調査は PMF の演奏会に実際に来場した方々を対象としているため、札幌市民、北海道民あるいは国民一般に PMF がどの程度認知されているかは、この調査では把握のしようがない。一般的な調査を実施するためには相当の費用がかかり現実的ではないため、回答者周辺での認知度合いの認識を尋ねる形で一般的な認知度への接近を試みた。“ご友人”として質問票ではカッコ書きで“学校の同級生や会社の同僚、ご近所の方などを含む親しい方々”とした。

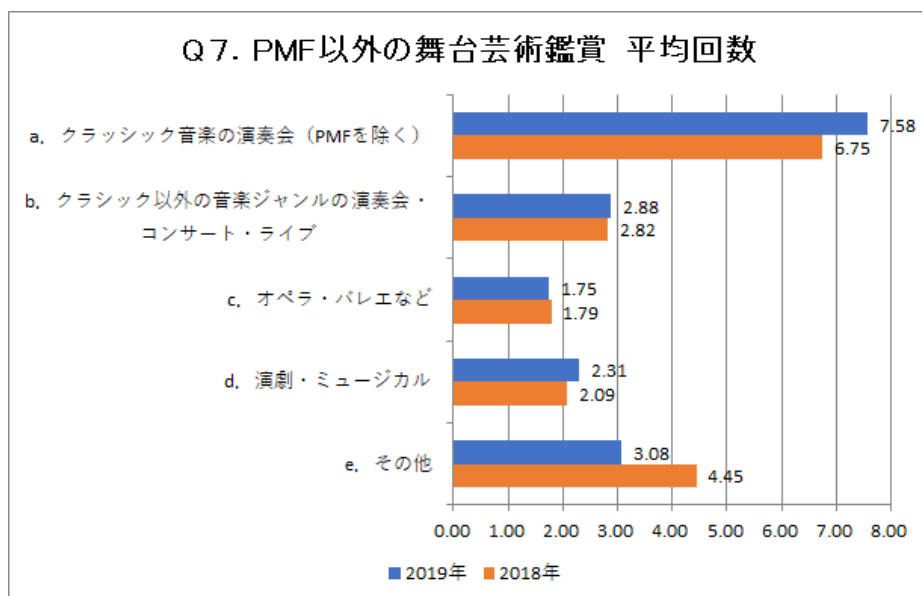
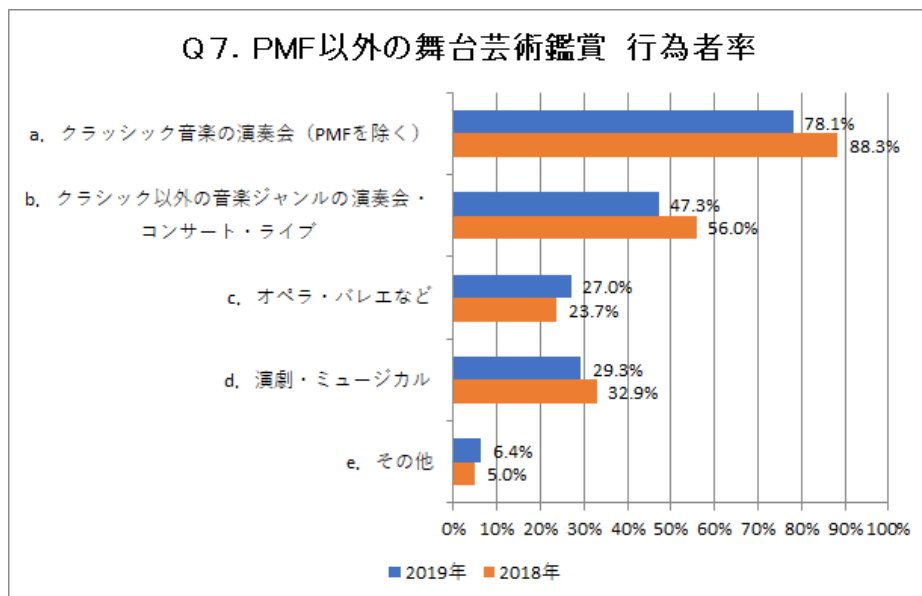
結果は以下のとおりで、「ほとんど誰も知らない」とする回答は 15%で、半分以上は知っているとする回答が 63%であった。これを、ほぼ全員 = 100%、 $3/4 = 75\%$ 、概ね半分 = 50%、 $1/4 = 25\%$ 、ほとんど誰も知らない = 0%として加重平均を計算すると、49.4%となった。札幌市が実施している文化芸術意識調査によると、PMF を知っているとの回答は、2017 年度 59.3%、2018 年度 53.3%で、来場者自身は一般的な認知度をやや控えめに見ているようだが、今回の結果はほぼ札幌市の調査結果と整合的である。



3-7. 舞台芸術の鑑賞状況

2018 年に続いて、来場者の舞台芸術鑑賞について尋ねた。PMF 演奏会への来場者の多くは、様々な舞台芸術を鑑賞されている。PMF 以外でもクラシック音楽の演奏会には平均で 8 回弱という結果で、3 か月に 2 回という頻度で鑑賞されている。2018 年と比較すると、行為者率は 10%ポイントほど下がったが、平均回数では 6.8 回から 7.6 回に増加した。

選択肢として提示した舞台芸術の鑑賞は、いずれも年間 1 回以上となっている。この設問では、札幌市内での鑑賞かどうかは確認していないが、札幌では様々な舞台芸術の公演が行われており、それらが受容され、享受されている状況の一端を見ることが出来る。



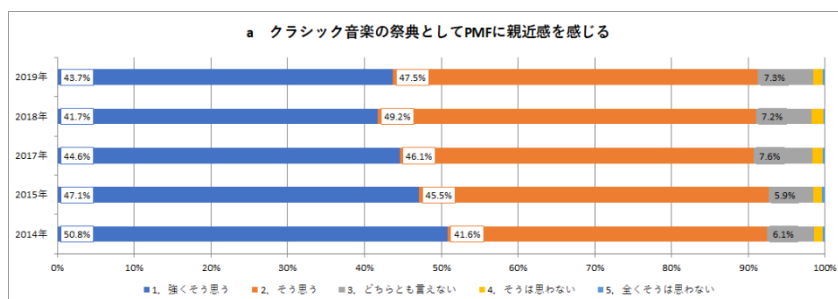
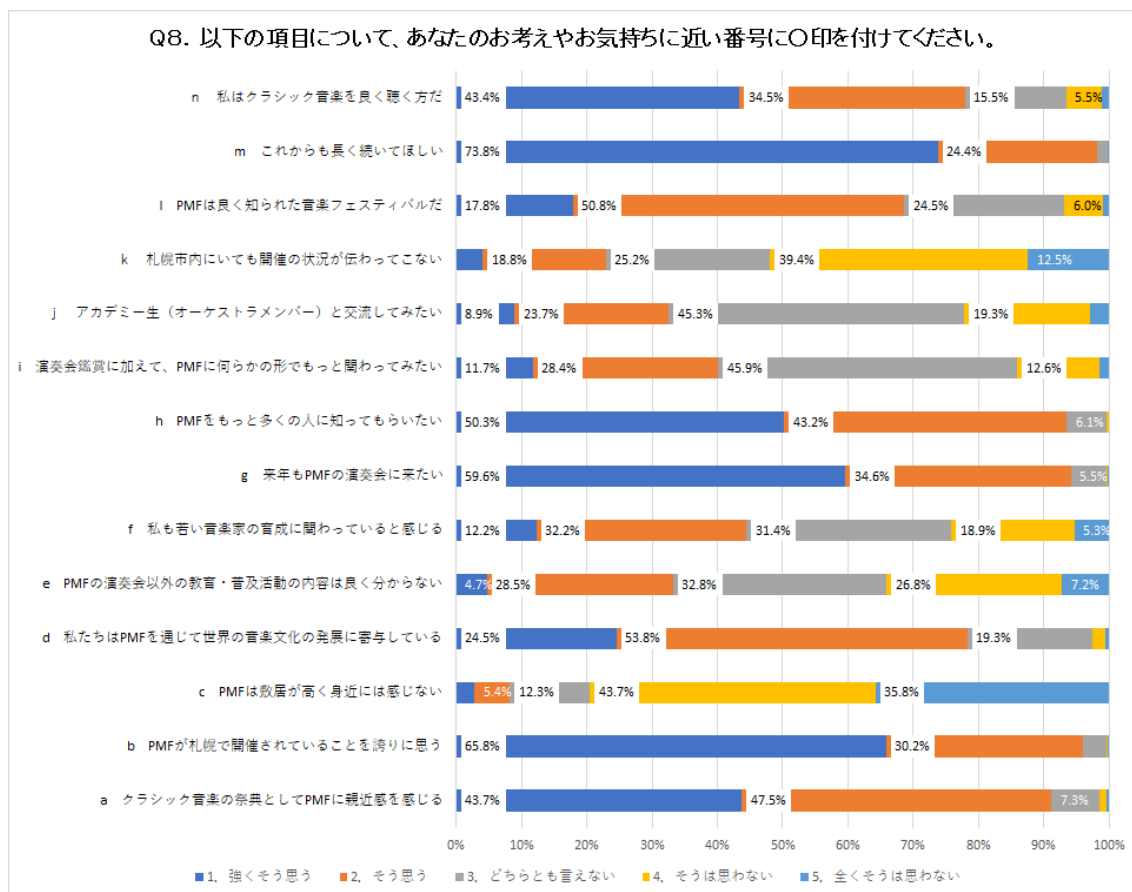
3-8. PMF に関する意識

2014 年の調査開始以来、2016 年を除いて毎回、設問項目を取捨選択しながら PMF に関する意識調査を続けてきた。2019 年調査では、概ねこれまでの結果と同様、「強くそう思う」、「そう思う」を合わせた肯定的回答から、PMF に対する強い支持を確認できる。なお、2015 年までの調査では 5 件法¹の選択肢として、「全くそう思う、そう思う、どちらとも言えない、そう思わない、全くそう思わない」と表記していたが、2017 年調査以降では「全くそう思う」を「強くそう思う」と表記している。しかし、「強くそう思

¹ 「強くそう思う」、「そう思う」、「どちらとも言えない」、「そうは思わない」、「全くそうは思わない」の 5 段階で、自分の意見に最も近い選択肢を選ぶように求める方法。

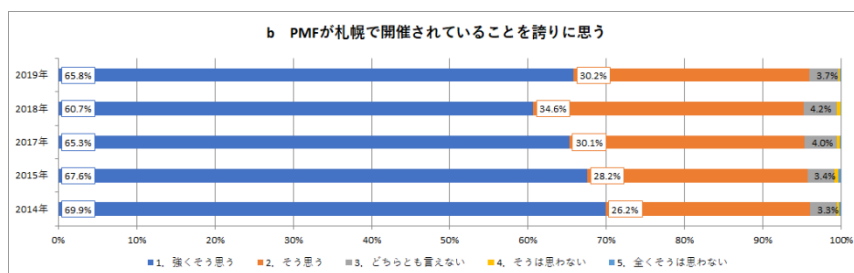
う、そう思う」の肯定的意見全体では大きな変化は見られないので、来場者の中で PMF への支持が低下しているという結論にはならないことを確認しておく。

2019 年調査では「クラシック音楽をよく聴く」を含めて 14 項目について、5 件法で意識を尋ねている。以下、設問項目ごとに過去の結果と比較しながら見ていくことにする。なお、項目によっては 2014 年以降毎年の調査ではないものがある。



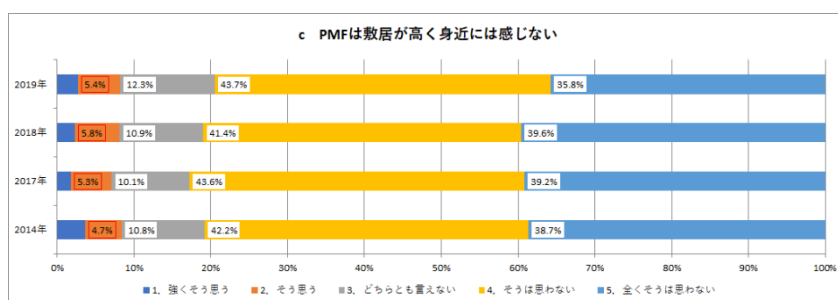
PMF に対する親近感
は 90%を超える回答
者が感じている。
2014 年以降変わらず
にこの傾向が続いて
いることから、PMF
に対する支持は揺る

ぎないものとなっている。「強くそう思う」に関しては、2014 年以降の低下傾向が止まった。



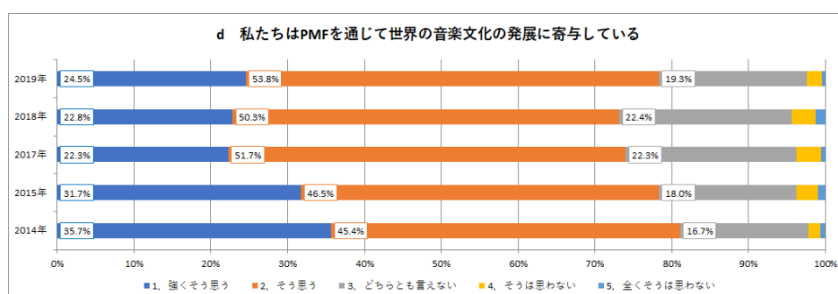
では 0.3%と極めて低い水準である。

95%の回答者が札幌開催を誇りに思うとしている。否定的意見は 2014 年以降 1%に満たない水準だが、2019 年調査

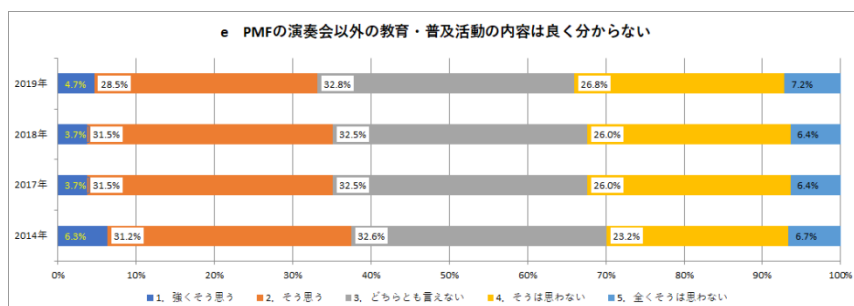


い。PMF のフェスティバルとしての側面が評価されていると言えよう。

敷居が高いと感じる回答者は 10%以下で、演奏会来場者にとって馴染みのある催しとなっている。全体の傾向は 2014 年以降変わっていない。

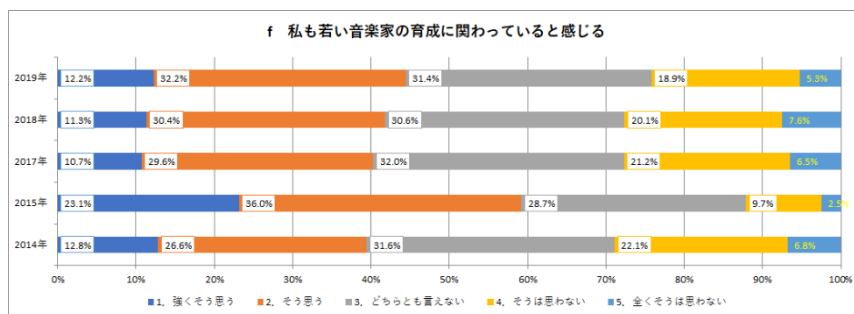


“私たち”という表現で、PMF を支持する人全体で、という意味を持たせたが、肯定的意見が 2019 年では 78%である。



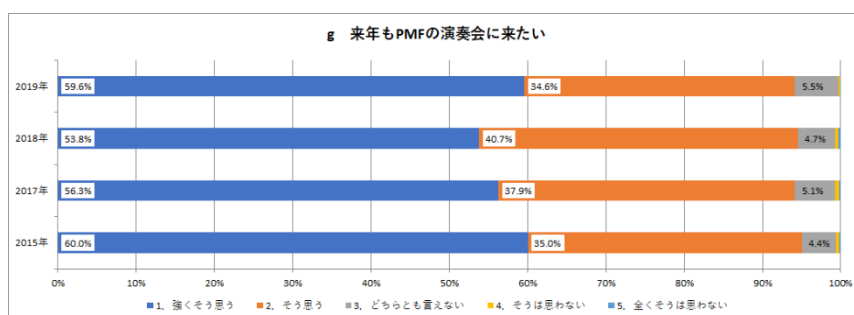
り、全体像の理解が進んでいる。

PMF は演奏会以外にも様々な活動を展開しているが、それらの活動の認知度である。“よく分からない”とする回答は傾向的に減少してお



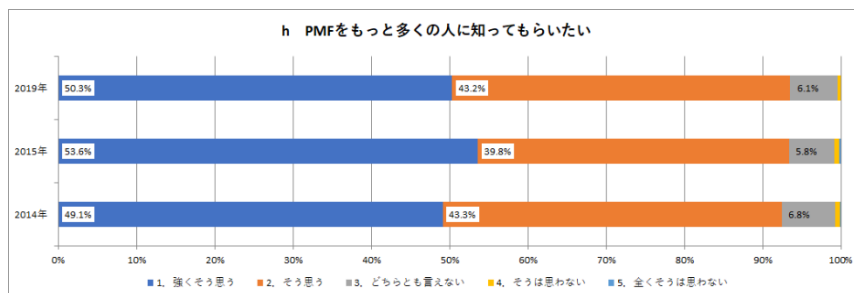
あるが、2017年以降漸増傾向にあり、2019年には44%となっている。一方、否定的意見は24%で、漸減傾向にある。世界の若手音楽家の教育というPMFのミッションが演奏会来場者の間での共有が進んでいると見て良いかどうか、今後も注視していく必要がある。

“私”自身が直接かわっていると感じるかどうかという強いコミットメントを尋ねている。2015年を除いて肯定的意見は各年40%強で



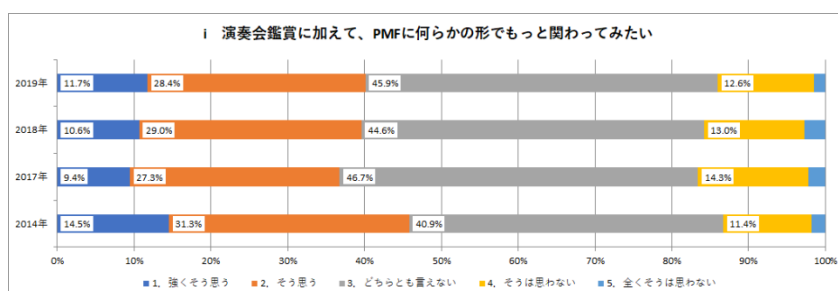
転、2018年から5.4%ポイント増加し60%となった。

肯定的意見が95%で回答者の圧倒的多数が来年の来場を望んでいる。特に2019年では、「強くそう思う」がこれまでの漸減傾向から一



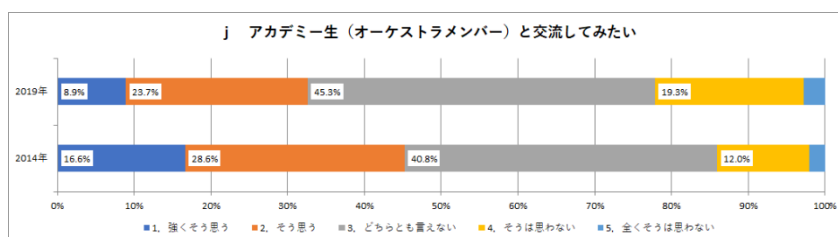
PMFは十分に認知されていないと考えていることの表れと受け止めるべきである。

2015年以来の設問項目である。肯定的意見は94%で圧倒的多数が、より広く認識されることを望んでいる。このことは、回答者の多くが



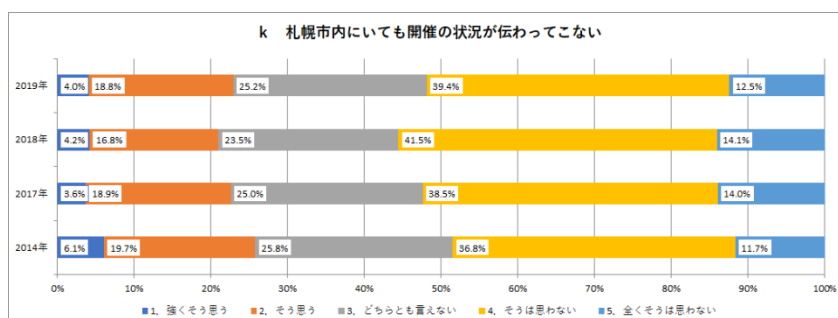
の活動に巻き込んでいくことが継続実施を確実にする一つの方策であると考えられる。

より積極的にPMFに関わりたいとする回答が2018年に続き40%ほどである。この40%の人たちを無理のない形でPMF



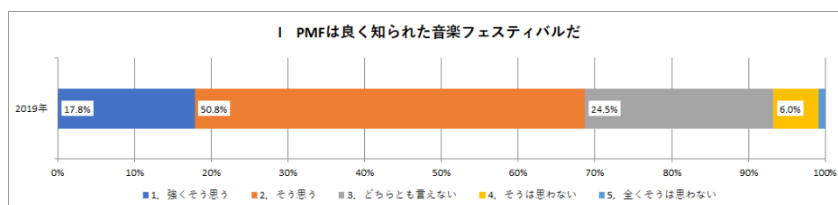
目で、2019 年では肯定的意見は 33%で 2014 年と比較すると、積極的な関りから静かに見守る姿勢へ変化しているように見える。

2014 年以来の設問項目である。アカデミー生との交流という積極的な関りを求めるかどうかという項目



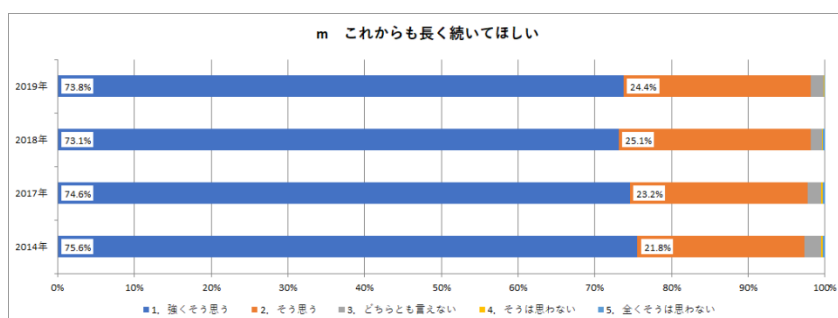
ない”とする回答は減少傾向、“伝わってくる”とする回答が増加傾向であったのが、2019 年にはこの傾向に変化があったようにも見える。

伝わってくる”とする回答は 2019 年では 52%で、情報提供は一定の効果を上げていると考えられる。ただし、2018 年までは“伝わってこ



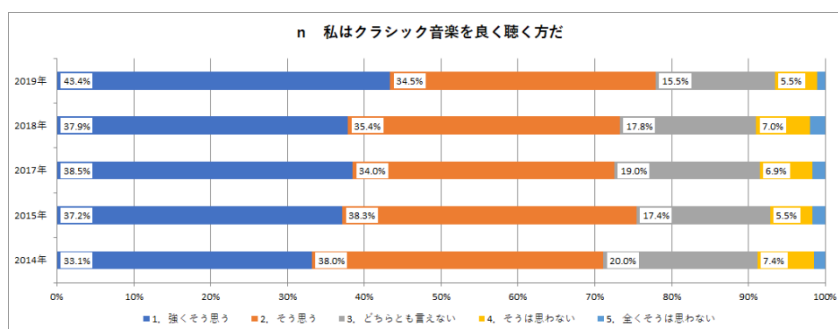
いとする回答は 7%であった。項目 h の回答状況と重ね合わせると、一定程度知られてはいるが十分ではない、PMF の活動内容を勘案すると本来享受してよいはずの認知度を得られていない、という判断と推測できる。

2019 年に初めて追加した項目である。よく知られていると認識している回答が 69%、知られていな



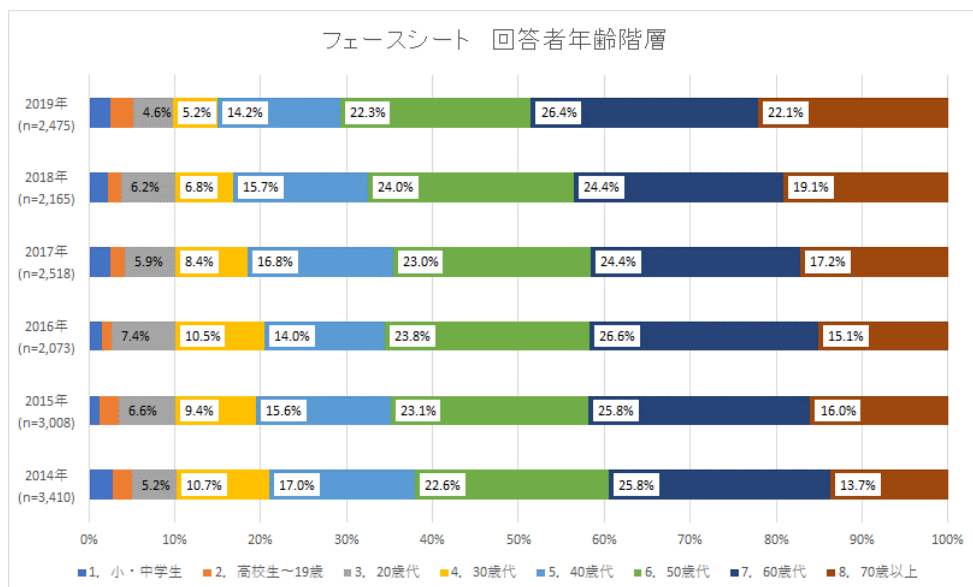
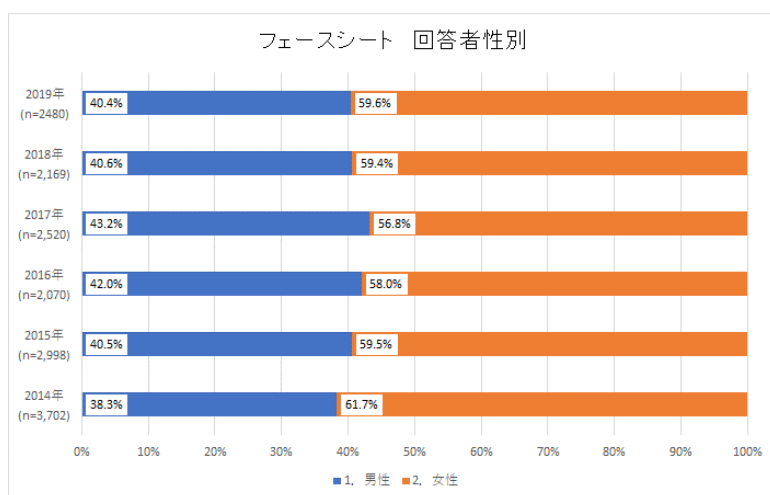
PMF に対する強い支持を示す結果である。

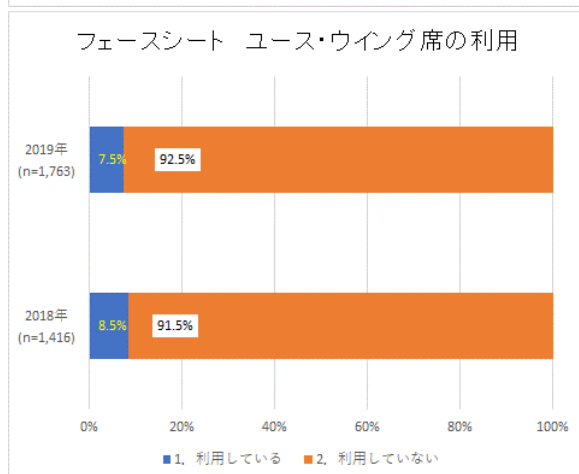
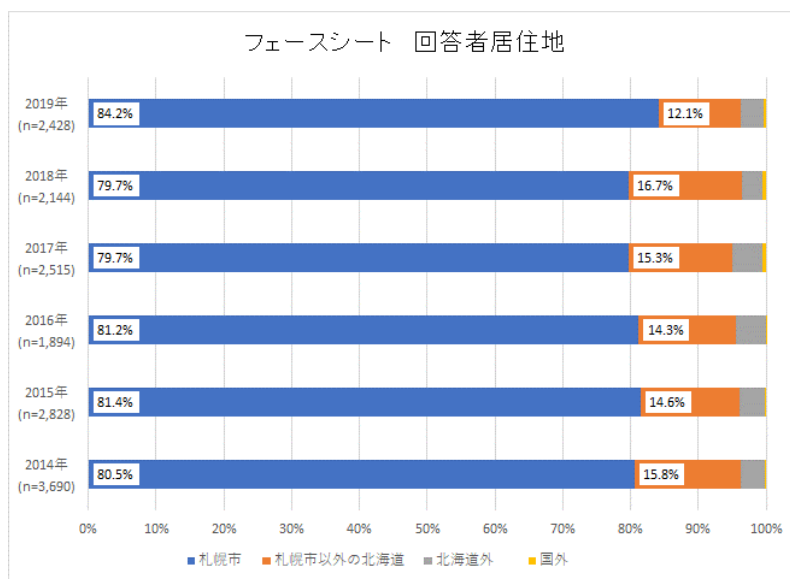
2014 年の第 1 回調査依頼、肯定的意見が圧倒的で、否定的意見は 0.5%であったが、2019 年には否定的意見は 0.1%であった。演奏会来場者の



自身クラシック音楽を“良く聴く”と考えるかどうかを尋ねたもので、肯定的意見が70%を超えている。2019年では2018年を4.7%ポイント上回っており、クラシック音楽の鑑賞者と自ら認識する来場者が増えている。

3-9. フェースシート



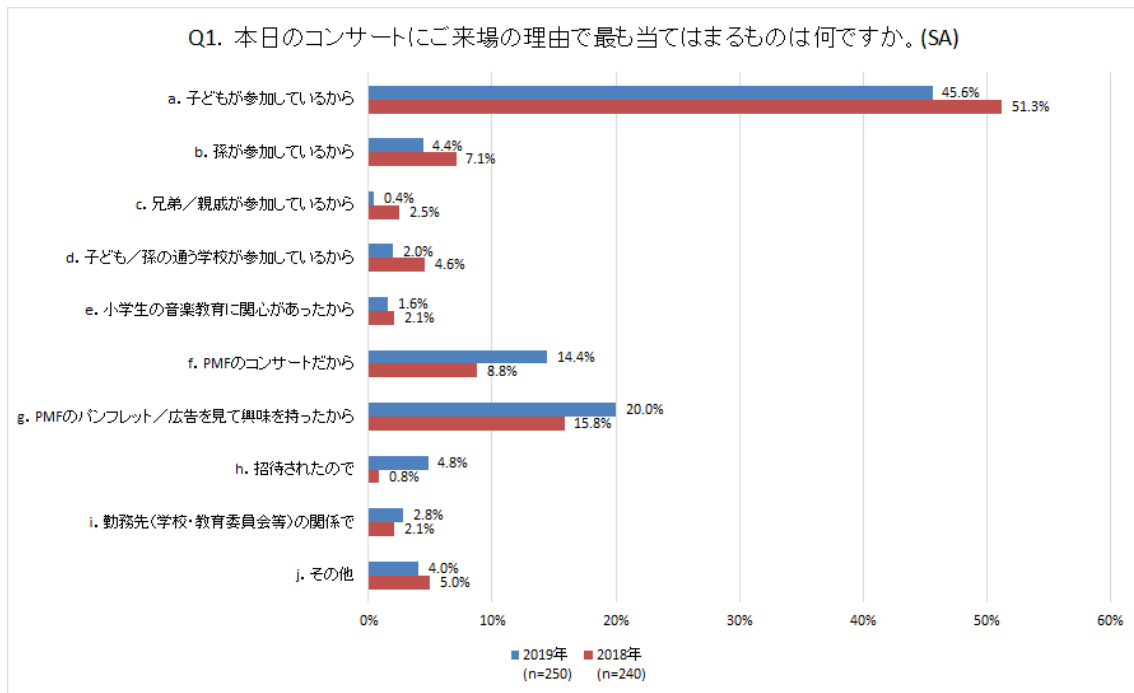


4. 集計結果分析その2 リンクアップ・コンサートの来場者調査

札幌市内の小学校の生徒を対象としたリンクアップ・コンサートへの来場者を対象としたアンケート調査である。2018年に初めて実施し2019年は2回目である。来場者の調査であり、参加した生徒や各学校の関係者を対象とした調査ではない。

4-1. 来場理由

子供が参加しているとの理由が2018年の51%から2019年は46%に減少したものの、来場者の半数が参加生徒の親であった。来場理由で2番目、3番目の「PMFのコンサートだから」、「PMFのパンフを見て興味を持った」が2018年と比較して25%から34%に9%ポイント伸びている点に注目しておきたい。PMFの活動の一環として認識し、来場された方が増えているという傾向が今後続くのかどうか、注視していきたい。

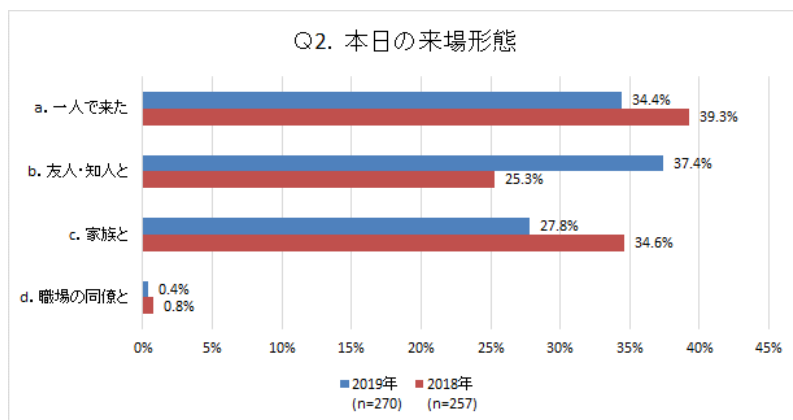


4-2. 来場形態

2018年と比較して来場形態のうち「一人」と「家族と」が減少し、「友人と」が12.1%ポイント増加している。この傾向が一時的なものかどうかは今後の調査を待たなければならないが、フェースシートの来場者性別で8割近くが女性であること、また実際に会場で観察したところクラスの母親同士の来場と見られる姿が認められた。

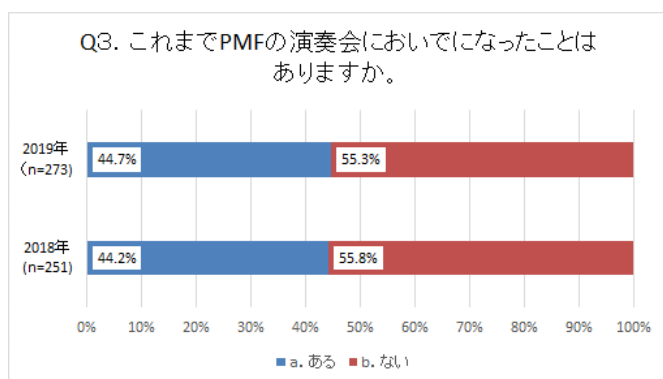
また小学6年生の母親ということで子育て中の方々が未就学児を連れての来場の姿が見られた。未就学児は通常のキタラでのコンサートでは入場できないので、リンクアップ・

コンサートが、コンサートホールでの演奏会への来場が困難なこのような方々にとって貴重な機会となっているとすると、PMFの果たす役割として認めておく必要があろう。



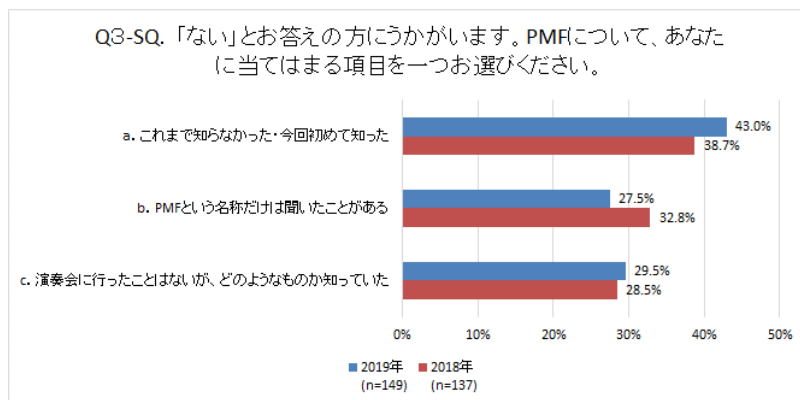
4-3. PMF への来場経験

44%が来場経験あり、56%がなしという結果は2019年でも変化がなかった。来場者の中心は参加生徒の父兄や親族、特に母親であったが、半数弱の来場者が演奏会への来場経験を持っている。



来場経験の有無別に来場理由を見ると、「PMFのコンサートだから」、「PMFのパンフレット／広告を見て興味を持ったから」というPMFの一部としての関心からの来場が、演奏会への来場経験ありでは63%、なしでは13%であった。一方、「子どもが参加しているから」との来場理由では経験ありでは18%であるのに対してなしでは67%であった。

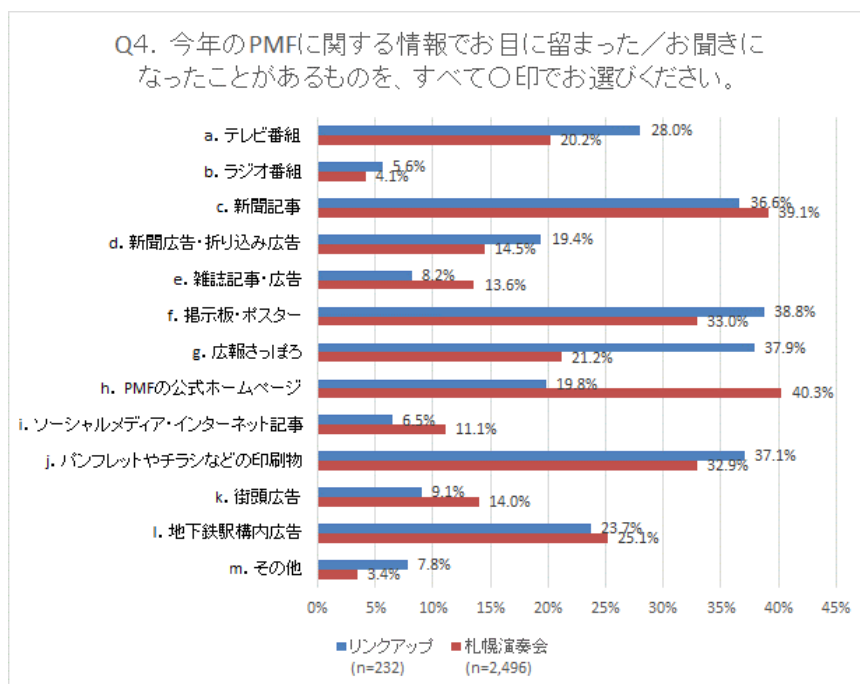
この設問のSQでは、来場経験なしと回答した回答者に対して、PMFの認知度を確認した。PMFについてこれまで知らなかったとする回答は2018年39%、2019年43%であった。「名称だけは聞いたことがある」が5%ポイント減り、「知らなかった」がほぼ5%ポイント増加したという構図である。「内容まで知っている」とする回答は変わらず、30%ほどはPMFの内容について何らかの知識を持っていた。リンクアップ・コンサートの本来の目的ではないが、PMF支持層になり得る基盤を拡充するための一助となっていると言えよう。



4-4. 提供情報の認知度

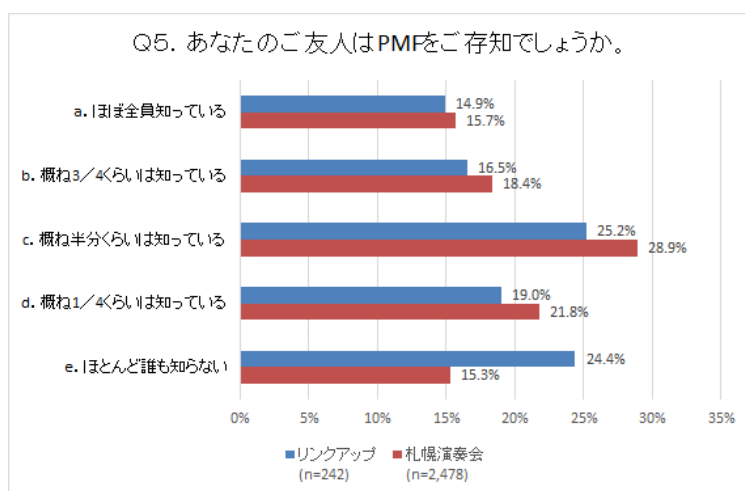
札幌演奏会場での調査と同様の設問である。札幌演奏会の結果と大きく異なるのが、テレビ番組、広報さっぽろ、PMFの公式ホームページである。演奏会来場者は概ねPMFについて知識があり関心がある人たちで、ダイレクトに情報入手が可能なインターネットメディアの利用が多い。対して、リンクアップ・コンサート来場者は必ずしもPMFに深い関心を寄せる層ではないとすると、既存マスメディアや広報さっぽろ経由の情報に目を留めることになると考えられる。このことから、PMFの支持基盤の拡充には既存メディアの活用もおおそかにはできないと言えそうである。

なお、2018年調査とは用意した選択肢が異なるので比較はできない。

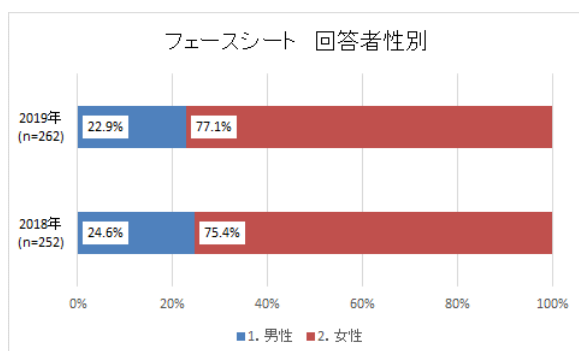


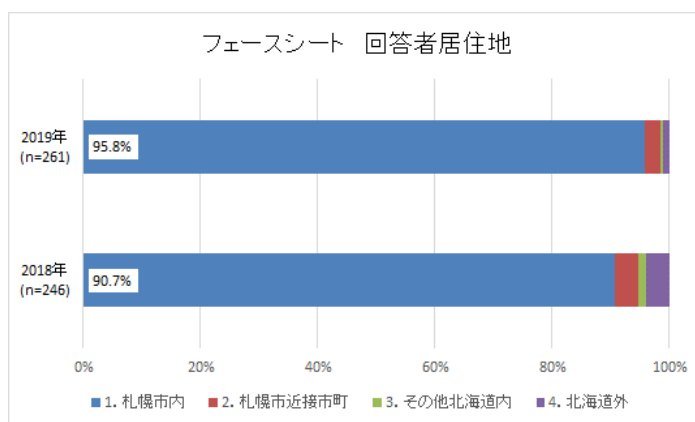
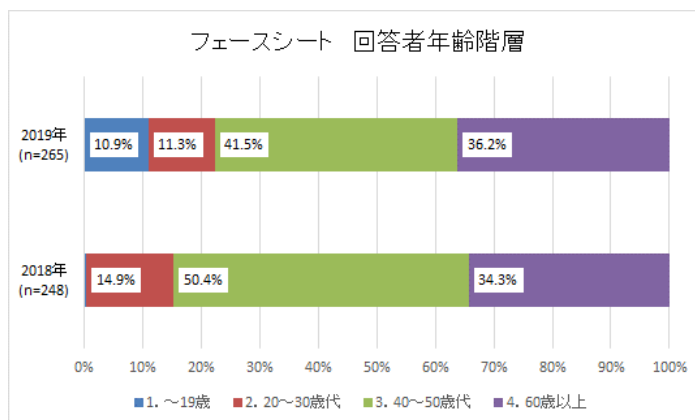
4-5. PMF の認知度

札幌演奏会の結果と比較すると、「ほとんど誰も知らない」が24%と9%ポイント上回っている点である。この結果、回答の加重平均は44.6%で49.4%の札幌演奏会での結果を4.8%ポイント下回った。これまでPMFの演奏会に退場したことのない人が4割強、さらにそのうちの4割強はこれまで知らなかったと回答していることからすると、45%という結果は札幌演奏会の結果に匹敵する結果と考えることが出来る。20～30歳代の若い母親たちは恐らくPMFを話題にする機会には恵まれず、また日常的な交流の中でもPMFが話題として取り上げられることは多くは無いであろう。そうした中で子供たちがオーケストラと共演するという機会は極めて貴重で、強い印象を残すものであろう。その経験を周囲に語ることで、PMFの認知度を上げることにつながり、さらにピクニックコンサートに誘うことにつながればリンクアップ・コンサートにもう一つ、大きな意味が出来る。



4-6. フェースシート



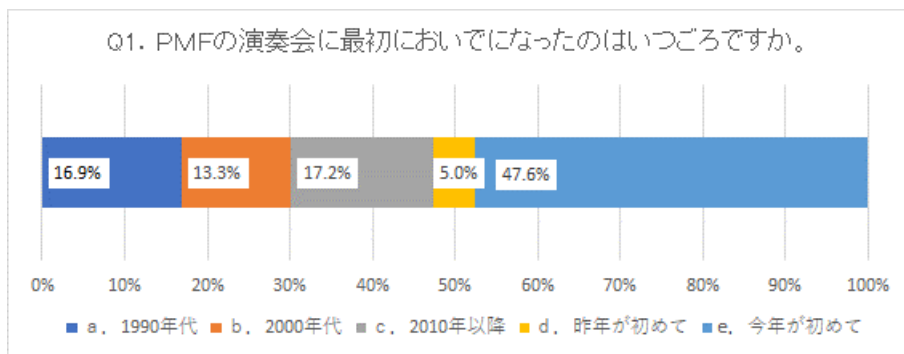


5. 集計結果分析その3 道内演奏会での調査結果に関する分析

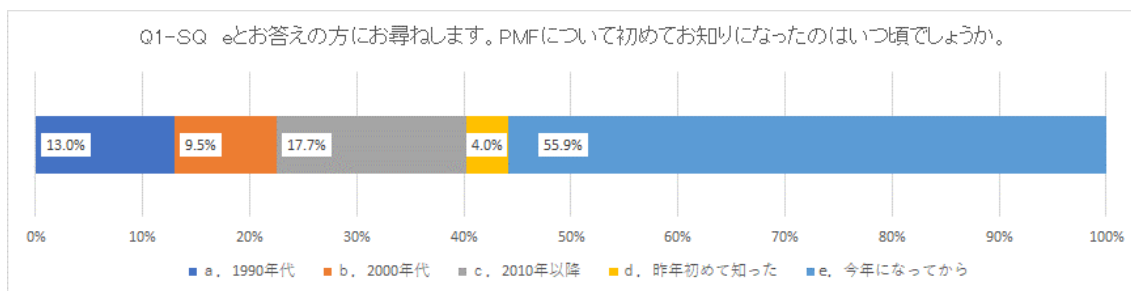
2019年には苫小牧・函館・江別・幕別で演奏会が開催された。以下ではこれら4会場で実施した調査をまとめた全体像を報告する。

5-1. 初来場時期

「今年が初めて」と「昨年初めて」が53%と半数を超えている。2018年は苫小牧と函館での調査で39%であった。2019年は江別と幕別というこれまでPMFの演奏会が開催されたことの無かった街での演奏会であったことが、このような結果の背景にあると考えられる。札幌で1カ月にわたり様々な演奏会が開催されているとはいえ、簡単にはアクセスできる距離ではないということを示唆している。そうした中で、継続的な来場が47%と、PMFが届ける音楽を支持し続ける人たちも多いことに注目しておこう。

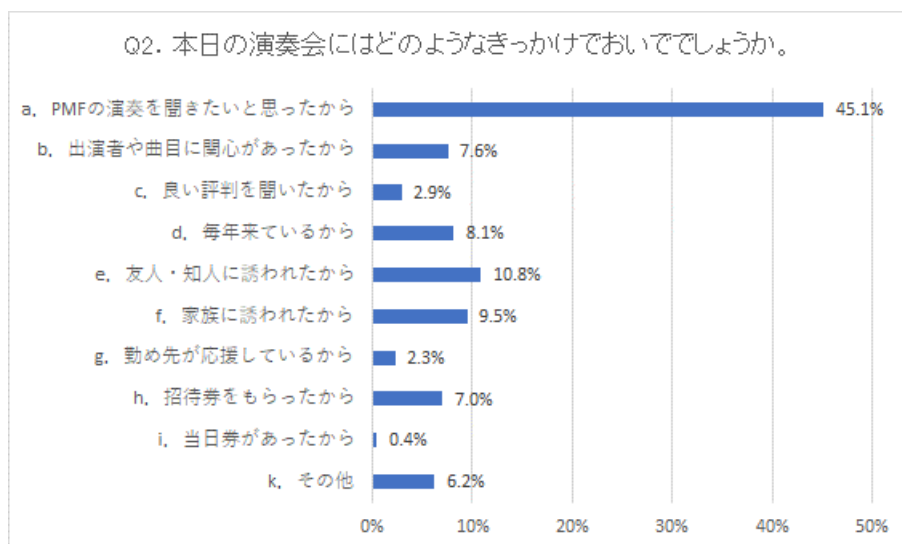


初来場者にいつからPMFをいつから知っているかを尋ねたところ、今年、昨年で60%が直近年までPMFを知らなかったという結果である。札幌演奏会での調査結果と比較して17%ポイントほど高いことになる。毎年約1か月間、様々な演奏会やその他のプログラムが展開される札幌と、1回の演奏会のための都市では認知度に差がつくことは致し方ない面もあるが、札幌市内に閉じこもるのではなく全北海道での支持基盤の強化について、検討を継続することが必要であろう。



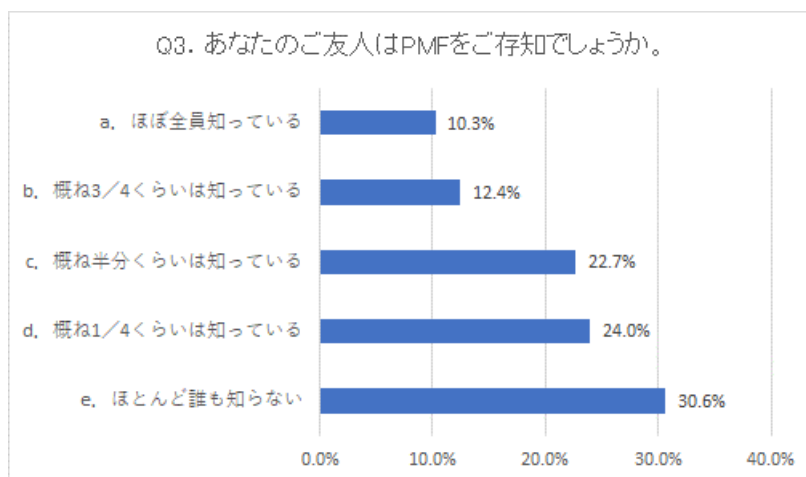
5-2. 演奏会来場のきっかけ

「PMF の演奏を聞きたかった」が 45%と他の理由を圧倒している。また、札幌演奏会の結果を 12%ポイント上回っている。ここからは直接音楽家の演奏に接する機会の乏しい聴衆の、生演奏を渴望する姿が見て取れる。コンサートホールで待つだけではなく、良質のクラシック音楽を聴衆のもとに届けるという PMF の姿勢が評価されるところである。



5-3. PMF の認知度

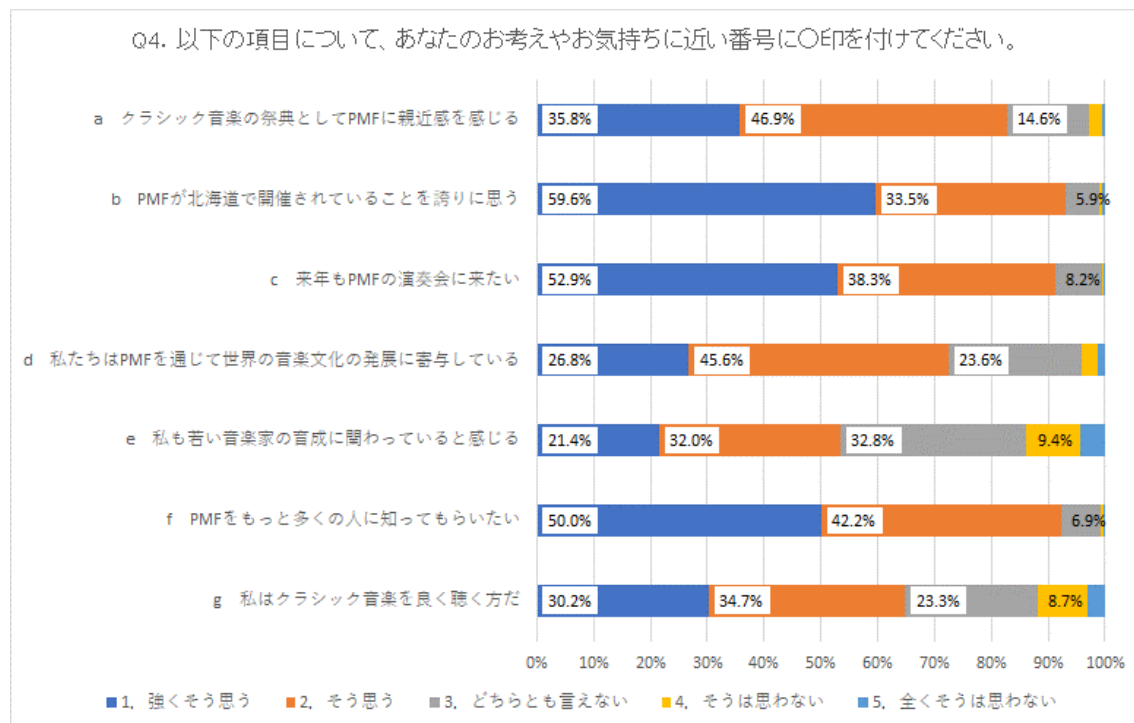
この設問は苫小牧会場では尋ねていないので、以下の結果は江別・函館・幕別の 3 会場の結果である。「ほとんど誰も知らない」が 31%となり、その結果加重平均は 36.9%であった。札幌演奏会の 49.4%と比較すると、13%ポイント下回る結果である。



5-4. PMF に関する意識

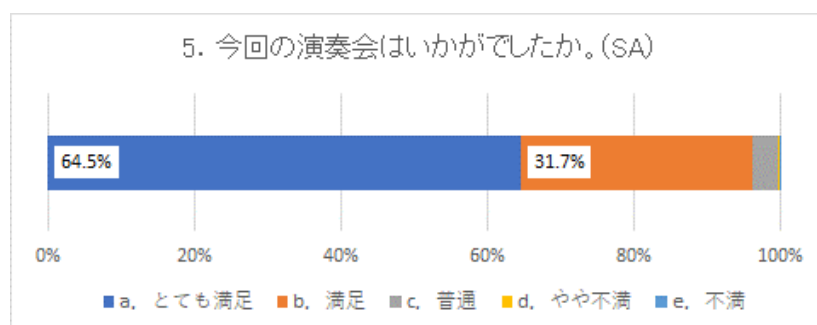
札幌演奏会での調査から 7 項目を選んで設問とした。全体として札幌調査と同様の傾向であるが、項目 e を除いて肯定的意見は札幌の結果を下回っている。項目 e 「私も若い音

楽家の育成に関わっている」では、道内演奏会の方が9%ポイントほど高い結果である。

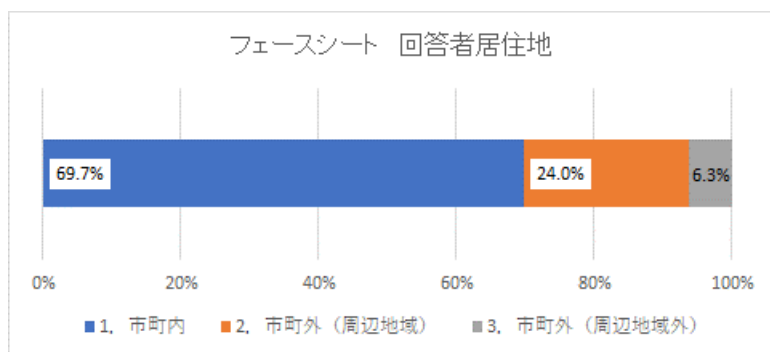
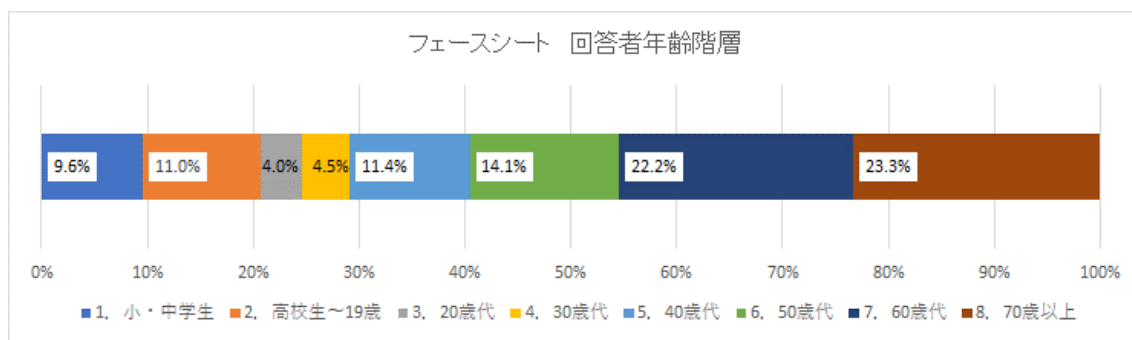
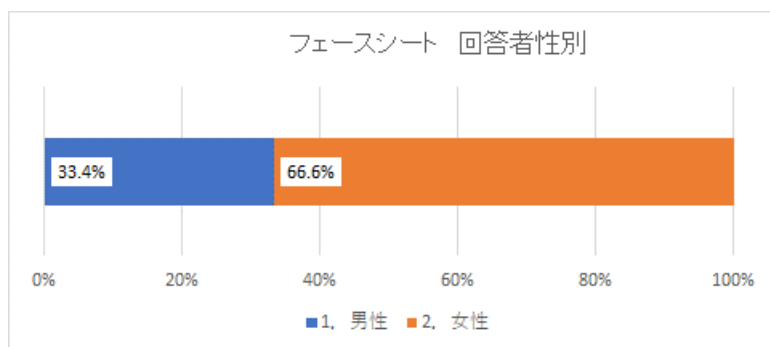


5-5. 演奏会の感想

満足とする回答が圧倒的で96%に達する。不満足回答は全くなかった。



5-6. フェースシート

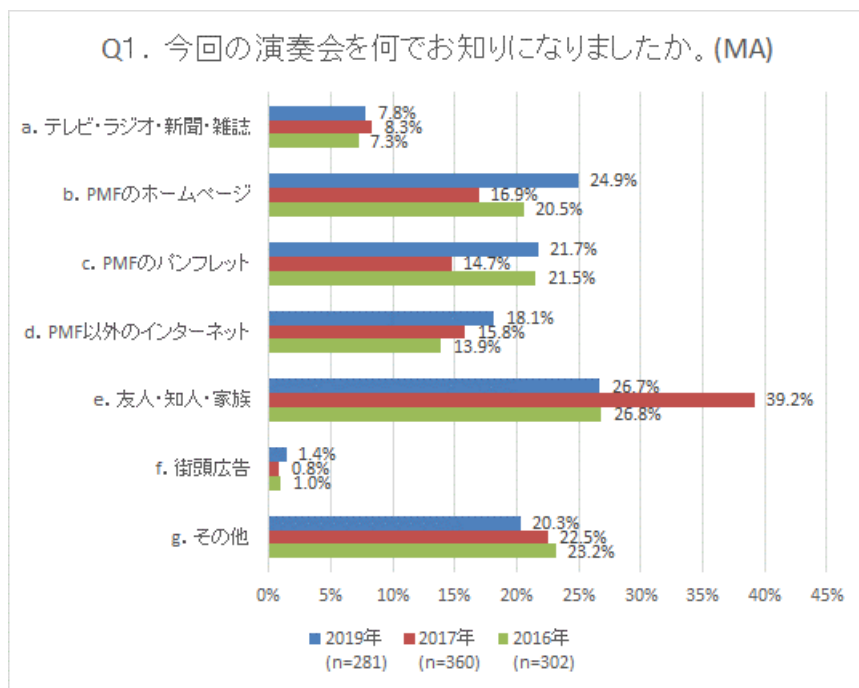


6. 集計結果分析その4 首都圏演奏会の調査結果に関する分析

毎年、札幌での全日程が終了したのち首都圏やその他の地域で演奏会が開催される。2019年は、川崎市のミュージザ川崎と東京のサントリーホールで開催された。なお、2018年の調査は広島で実施したため、以下では比較対象としていない。会場入り口で調査票を配布し、終演後の出口で回収を行った。

6-1. 演奏会に関する情報入手

演奏会情報の入手経路を確認する設問である。2016年、17年、19年を比較すると2017年の「友人・知人・家族」が突出した値を示しているが、全体として緩やかな変化傾向を示している。全体の傾向として、インターネットメディアへの依存増が見て取れる。PMFの公式サイトが2019年には25%と「友人・知人・家族」に並ぶ情報源となり、「PMF以外のインターネット」も年々依存度が増している。

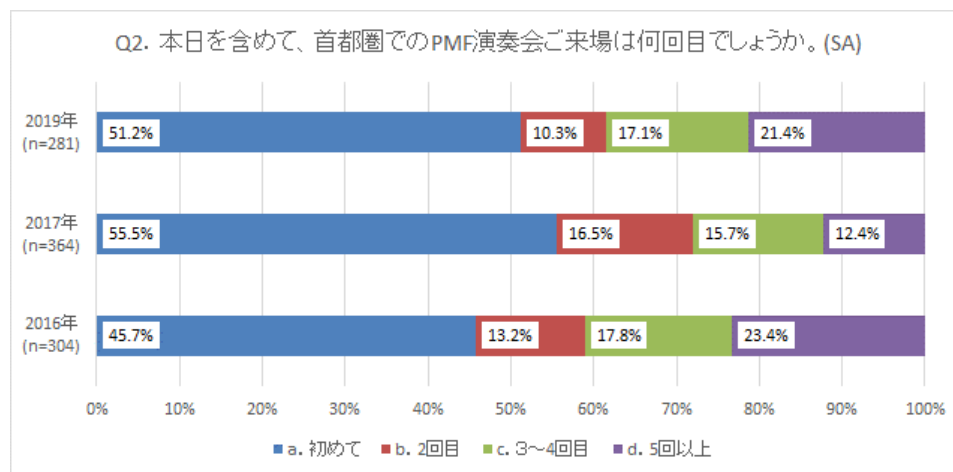


6-2. 首都圏での PMF 演奏会来場

首都圏での演奏会は毎年実施されているので、リピーターの存在が期待できる。この設問はその点を確認するものである。

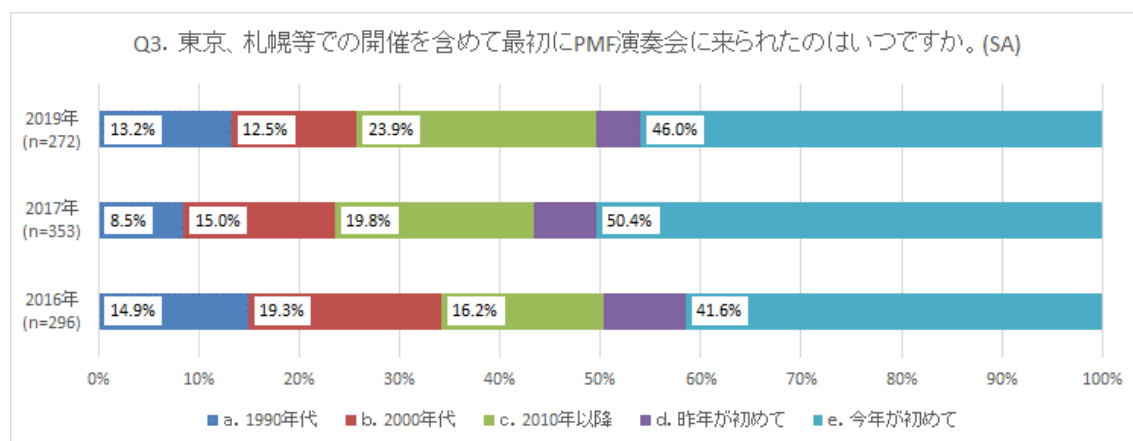
回答者の半数は「今回が初めて」とする初来場者である。一方、5回以上来場とする回答者は21%存在し、熱心なリピーターの存在を確認できる。札幌でのPMFのプログラムと異なり、首都圏では1～2回の演奏会のみであるため、また夏の時期とはいえ首都圏で

は様々な演奏会が開催されている中で、PMFのファンを創り出していくことは困難を伴うが、努力を積み重ねていくことが必要であろう。



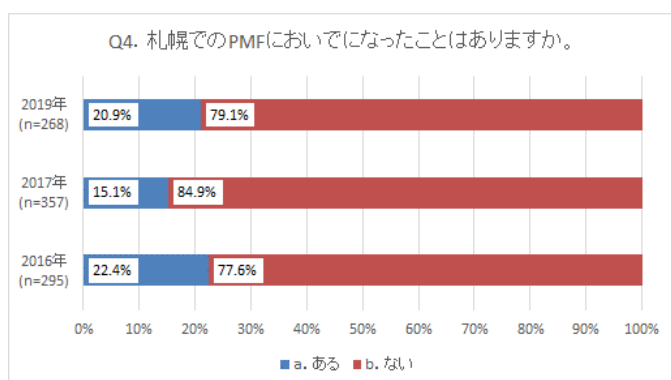
6-3. 初来場時期

札幌を含めての初来場時期の確認である。40~50%が初来場あるが、1990年代からの来場者も13%存在することは、長くPMFに関心を寄せる人たちが存在することを示している。



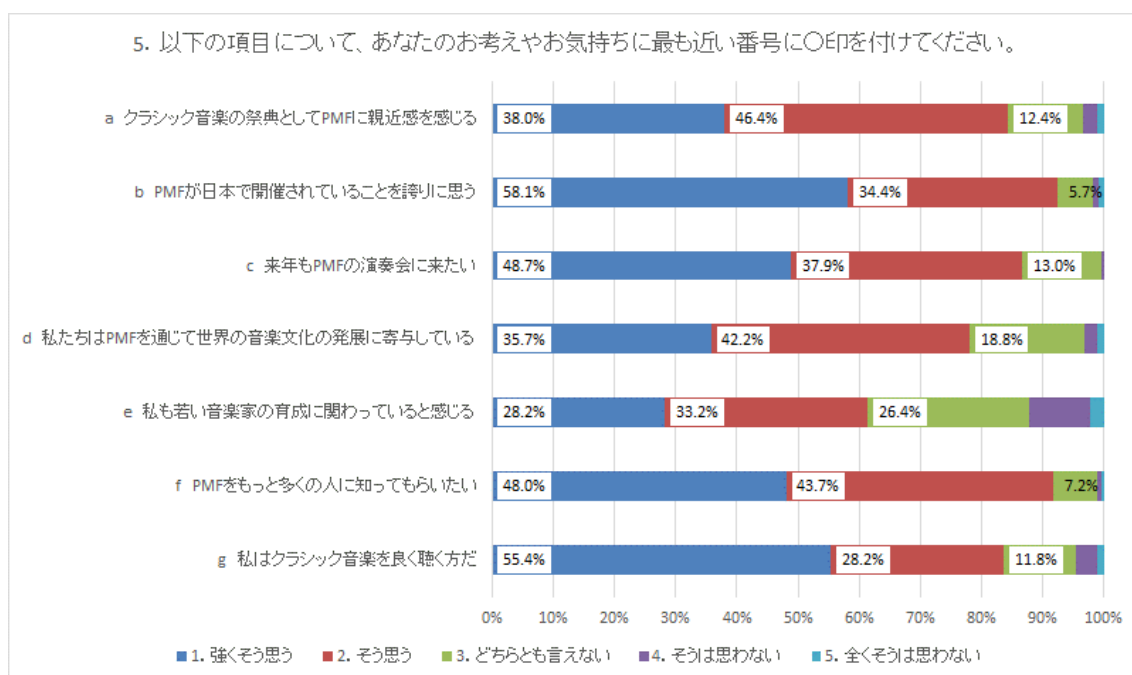
6-4. 札幌への来訪経験

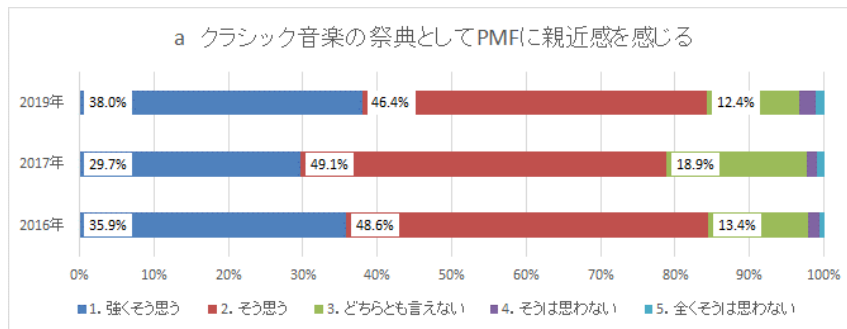
回答者の20%ほどが札幌でのPMFへの来訪経験があるとしている。調査年により幅があるが、概ね20%と考えて良いであろう。この数値を上昇させることを検討するかどうかは、道外での演奏会の位置づけに関わることであろう。その観点からの検討を待ちたい。



6-5. PMF に関する意識

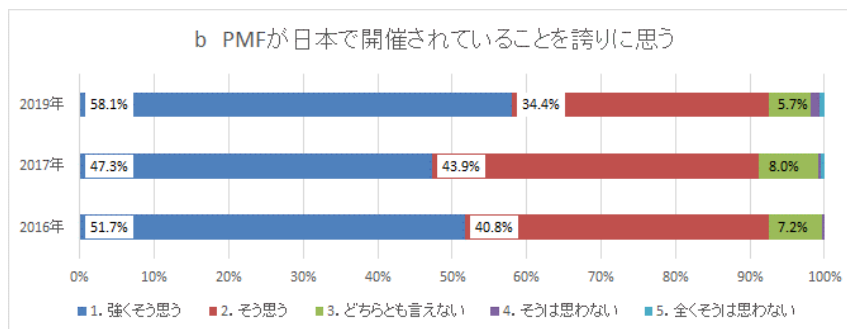
札幌演奏会で実施している PMF に関する意識調査で、設問項目を絞って実施している。回答方法は同様の 5 件法である。ここで取り上げた項目についてはいずれも肯定的意見が 60%を超える結果となっていて、PMF に対して一定の評価が下されている。しかし、札幌演奏会の結果と比較すると、肯定的意見の比率が低く、中立的意見（どちらとも言えない）の比率が高くなっている。





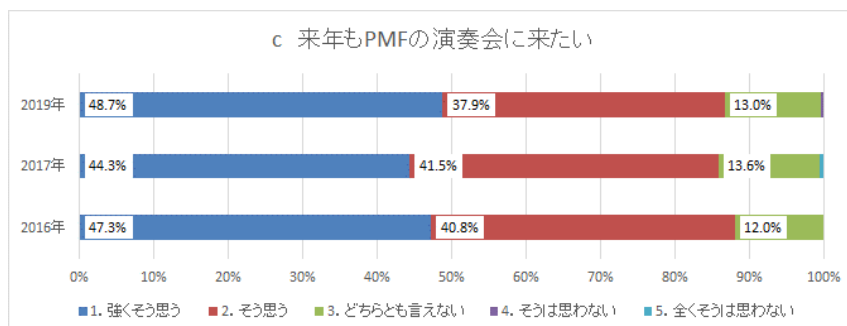
開催され、祭典にふさわしい華やかさがあるが、首都圏では2公演であるので、この結果は致し方ない。それでも8割を超える回答が親近感を感じていることに留意しておきたい。

札幌演奏会では肯定的意見が91%であったが、84%にとどまっている。札幌ではコンサートホールでの演奏会に加えて市内各所でのアウトリーチコンサートが

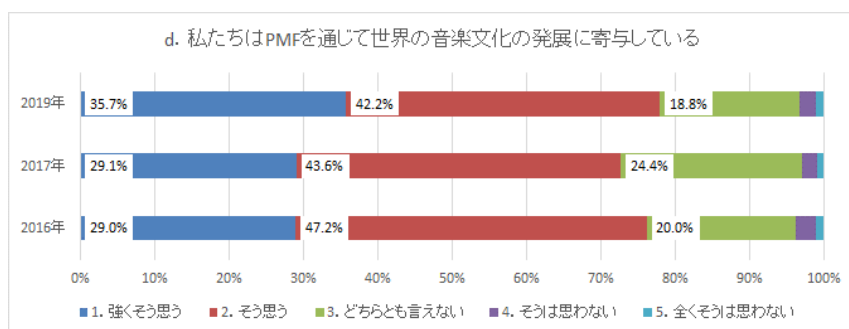


が誇りに思うとしている。否定的意見は2%弱である。

札幌演奏会での調査では「札幌で開催されている」とした項目である。日本で開催の音楽祭として誇ることが出来るかを尋ねたことになる。2019年で93%

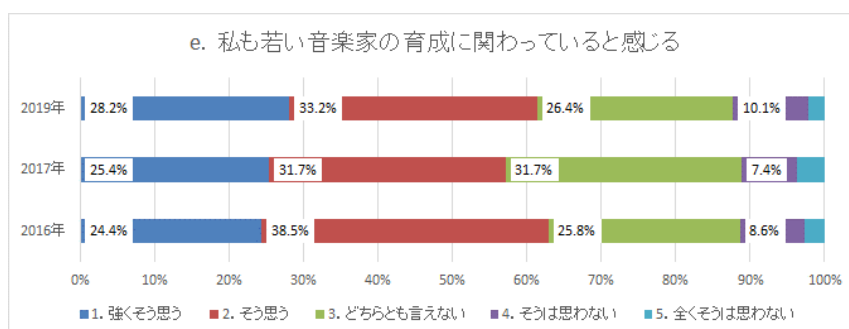


札幌演奏会の94%に対して87%で中立的意見が札幌を7.5%ポイント上回っている。



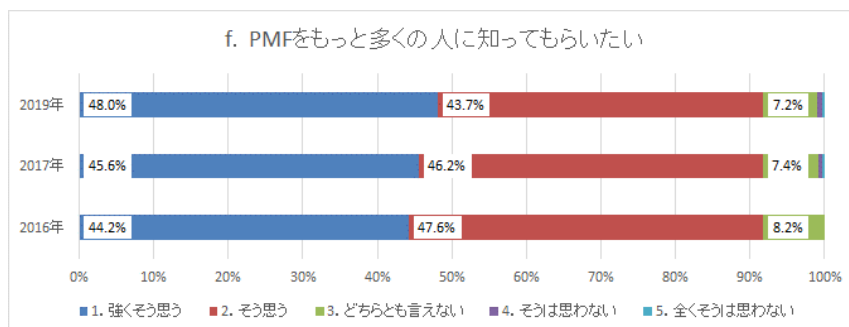
肯定的意見は札幌演奏会とほぼ同水準で、積極的肯定（強くそう思う）はむしろ首都圏のほうが10%ポイント以上高くなっている。首都

圏の演奏会来場者も PMF の意義をよく理解していると言える。

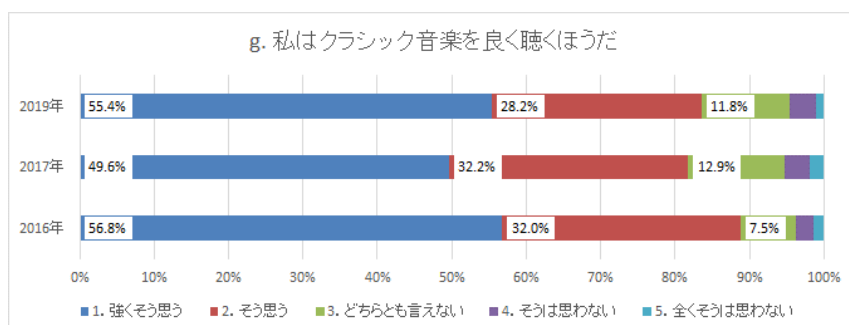


d 項と同様の傾向を示している。肯定的意見は札幌演奏会を大きく上回り、積極的肯定は16%ポイントも上回っている。演奏を聴くこと

によってアカデミー生の成長に直接かかわっているとの意識が持たれている。



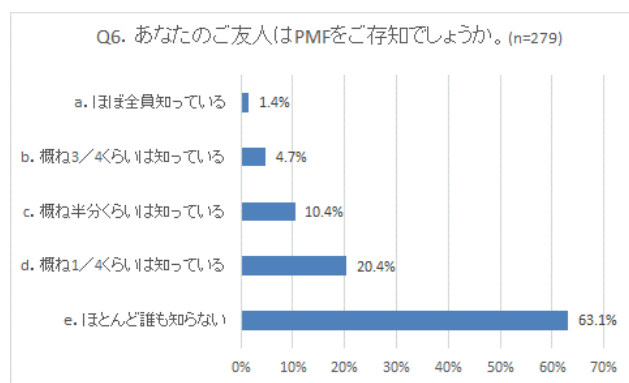
ここでも札幌演奏会の結果とほぼ同水準の結果である。積極的肯定の比率が2016年から漸増している点に注目しておきたい。



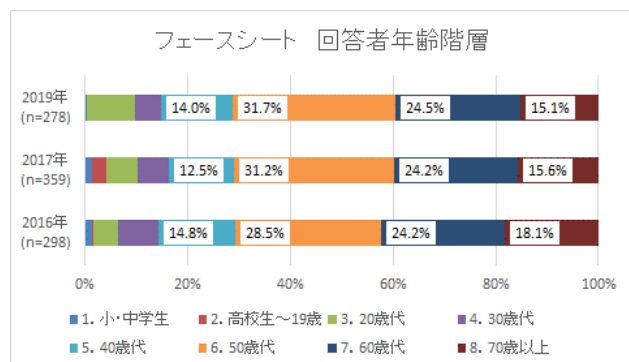
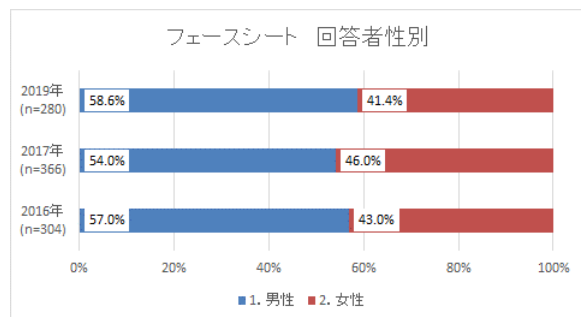
肯定的意見は札幌演奏会を5.7%ポイント上回っている。クラシック音楽を聴きこんでいる来場者が中心となっている。

6-6. PMF の認知度

演奏会来場者を超えた一般的な PMF 認知度の把握に接近する設問を首都圏での調査でも実施した。結果は図の通りで、「ほとんど誰も知らない」が 63%と 6 割を超え、「ほぼ全員知っている」は僅かに 1.4%であった。この結果に基づいて加重平均を求めると、15.2%であった。札幌演奏会での結果 49.4%を大きく下回る。首都圏の回答者はクラシック音楽をよく聴く人たちであり、その友人知人もクラシック音楽に理解のある人たちが含まれるであろうが、十分には知られていないという結果である。そして、これは一般的な認知度の推計として有効と考えられるので、ここを出発点として全国的な認知度の向上を考える必要がある。



6-7. フェースシート



7. まとめ

2014 年より継続実施している来場者調査は 6 年目となった。これまで調査票への回答を熱心にご記入いただいた多くの方々のご協力の賜物である。心よりの感謝を申し上げる次第である。

過去 5 回の報告書のまとめでは、来場者の中のリピーターの拡大、情報提供のあり方、演奏会来場者の外側に存在するサポーターの拡大、北海道外での認知度向上といった課題について述べてきた。今回はこれらの課題に加えて、2019 年に初めて試みた PMF の認知度把握について整理をしておきたい。

それぞれの調査結果報告の中で示したが、回答結果の加重平均を再度整理しておく以下のとおりである。

札幌演奏会来場者	49.4%
リンクアップ・コンサート来場者	44.6%
道内演奏会来場者	36.9%
首都圏演奏会来場者	15.2%

この結果は驚くべき発見ということではなく、直感的に状況は推測できるものである。しかし、一般の認知度について、定量的に接近しえたという点に意味があると考え。この結果をどのように把握するか、それぞれの数値の内容を若干詳細に見ることで考えたい。

札幌演奏会

	加重平均	e. ほとんど誰も知らない
a. 1990年代	57.4%	9.7%
b. 2000年代	51.4%	9.4%
c. 2010年以降	46.9%	12.8%
d. 昨年初めて	42.4%	25.9%
e. 今年が初めて	38.1%	31.0%

リンクアップ

	加重平均	e. ほとんど誰も知らない
来場経験あり	55.3%	13.9%
来場経験なし	36.3%	32.3%

道内演奏会

	加重平均	e. ほとんど誰も知らない
a. 1990年代	51.2%	14.3%
b. 2000年代	51.2%	8.6%
c. 2010年以降	40.0%	25.5%
d. 昨年初めて	43.1%	27.8%
e. 今年が初めて	27.7%	43.1%

道内演奏会場別

	加重平均	e. ほとんど誰も知らない
江別	43.4%	22.6%
函館	41.6%	24.3%
幕別	24.9%	46.3%

首都圏演奏会

	加重平均	e. ほとんど誰も知らない
初来場 1990年代～2010年代	22.2%	47.4%
昨年初めて	9.2%	77.2%

前述した札幌市の文化芸術意識調査では、PMFを知っているとの回答は、2017年度59.3%、2018年度53.3%であった。より年次の新しい2018年度の数値を取ると、札幌演奏会の初来場時期別に見た結果である57%から38%のレンジの中にあるため、整合的と判断した。全体として長くPMFに接しているほど一般の認知度を高く見る傾向がある。また、道内演奏会の会場別集計では幕別会場来場者の平均では25%と低く、札幌に隣接する江別や過去にも演奏会開催がある函館では札幌演奏会やリンクアップ・コンサートの平均に近くなっている。以上のことから、PMFに直接接する機会をより多く持ち、より知識を持っている人ほど一般の認知が進んでいると判断していると言えよう。そのような人は自らPMFを話題にする機会を多く持ち、したがって友人知人のPMFに対する認知が向上すると推測できる。この推測が正しいとすると、一般の認知度向上のためには、演奏会来場者がより多くの演奏会に来場し、継続してPMFとの関りを持つように促していくことが必要になる。また、来場者の自発的な情報発信を促していくことも有効であろう。

より直接的に一般の認知度を上げることを企図すると、本報告書で対象としてきた演奏会来場者ではなく、PMFに特段の関りを持たない人たちへのアプローチを考えることになる。そのためには、対象となる人たちがどのような人たちなのかを把握するところから始めなければならない。多少なりともクラシック音楽に対する選好を持つ人たちに対するアプローチと、クラシック音楽に対する興味関心は持たないが、新興国や途上国の若者の支援に関心を持つ人たちに対するアプローチはおのずと異なる。どちらのグループもPMFのサポーターになり得る人たちであり、PMFの活動を認知してもらいたいグループである。ここで具体的な方策を示すことは出来ないが、例えば前者に対してはアカデミー修了生の協力を仰ぐことが考えられよう。また、後者に対しては国際機関や国際NGOとの連携も視野に入るだろう。

いずれにしてもPMFの継続的な実施の条件をより強固なものにするための努力の一環としてこのような観点から様々な工夫が検討されてよいだろう。

<付属資料>

2019 年調査 調査票設問項目および単純集計結果

集計分析結果の表示にあたっては無回答、無効回答を除いた有効回答数に対する比率を示した。以下の設問項目の一覧では、提示した選択肢に対して無回答、無効回答を含めた比率を表示している。

1. 札幌演奏会調査票 調査票項目

Q1. PMF の演奏会に最初においでになったのはいつごろですか。該当する項目一つに✓印を付けてください。

a. 1990年代	33.3%	b. 2000年代	20.7%	c. 2010年以降	21.2%	d. 昨年初めて	4.3%
e. 今年が初めて	18.6%	無回答	1.7%	無効回答	0.2%		

Q1-SQ. 「今年が初めて」とお答えの方にお尋ねします。PMF について初めてお知りになったのはいつ頃でしょうか。 (n=488)

a. 1990年代	19.7%	b. 2000年代	12.5%	c. 2010年以降	21.5%	d. 昨年初めて知った	6.8%
e. 今年になってから	33.8%	無回答	5.7%	無効回答	0.0%		

Q2. 本日の演奏会にはどのようなきっかけでおいででしょうか。最もあてはまる項目一つに✓印を付けてください。

a. PMFの演奏を聞きたいと思ったから	29.4%	b. 出演者や曲目に関心があったから	14.4%		
c. 毎年来ているから	16.3%	d. 良い評判を聞いたから	0.9%		
e. 友人・知人に誘われたから	4.9%	f. 家族に誘われたから	8.2%		
g. 勤め先が応援しているから	1.3%	h. 招待券をもらったから	7.2%		
i. 当日券があったから	0.2%	j. ユース・ウイング席が設定されていたので	1.1%		
k. その他	5.5%	無回答	0.9%	無効回答	9.6%

Q3. 本日の演奏会にはどういった方とおいででしょうか。該当する項目一つに✓印を付けてください。

a. 一人で来た	38.0%	b. 友人・知人と来た	16.6%	c. 家族と来た	43.4%	d. 職場の同僚と来た	0.5%
無回答	1.1%	無効回答	0.4%				

Q4. PMF に関する情報提供で今年お目に留まったもの／お聞きになったものはどれですか。該当する項目をすべて✓印でお示してください。

a. テレビ番組	19.2%	b. ラジオ番組	3.9%	c. 新聞記事	37.3%	d. 新聞広告・折り込み広告	13.8%
e. 雑誌記事・広告	12.9%	f. 掲示板・ポスター	31.4%	g. 広報さっぽろ	20.2%	h. PMFの公式ホームページ	38.3%
i. ソーシャルメディア・インターネット記事	10.5%	j. パンフレットやチラシなどの印刷物	31.3%				
k. 街頭広告	13.3%	l. 地下鉄駅構内広告	23.9%	m. その他	3.3%		
無回答	4.8%	無効回答	0.0%				

Q4-SQ この中で特に記憶に残ったものはありますか。項目とともに感想などをご記入ください。

a. テレビ番組	3.1%	b. ラジオ番組	1.4%	c. 新聞記事	10.8%	d. 新聞広告・折り込み広告	2.1%
e. 雑誌記事・広告	1.7%	f. 掲示板・ポスター	4.9%	g. 広報さっぽろ	1.7%	h. PMFの公式ホームページ	9.7%
i. ソーシャルメディア・インターネット記事	5.9%	j. パンフレットやチラシなどの印刷物	18.1%				
k. 街頭広告	8.0%	l. 地下鉄駅構内広告	27.8%	m. その他	6.6%		

Q5. お知りになりたいことは苦労なく入手できていますか。該当する項目一つに✓印を付けてください

a. はい	82.7%	b. いいえ	10.8%	無回答	6.4%	無効回答	0.1%
-------	-------	--------	-------	-----	------	------	------

Q5-SQ: 「いいえ」とお答えの方にお尋ねします。入手が難しいと感じられる情報はなんですか。(該当する項目すべてに✓印を付けてください)

a. 演奏会日程	36.2%	b. 演奏者情報	38.3%	c. アカデミー生に関すること	14.9%
d. アカデミーのオーケストラ教育について	12.8%	e. 公開練習、リンクアップ等の音楽普及活動について			12.8%
f. 組織委員会に関すること	5.0%	g. 来年以降の日程・内容	30.9%	h. アカデミー修了生の近況	15.6%
i. PMFの理念や将来構想に関すること	11.0%	j. その他	13.5%	無回答	0.0%

Q6. あなたのご友人（学校の同級生や会社の同僚、ご近所の方などを含む親しい方々）はPMFをご存知でしょうか。(SA)

a. ほぼ全員知っている	14.8%	b. 概ね3/4くらいは知っている	17.4%	c. 概ね半分くらいは知っている	27.3%		
d. 概ね1/4くらいは知っている	20.6%	e. ほとんど誰も知らない	14.5%	無回答	5.2%	無効回答	0.3%

Q7. 札幌では多様な音楽、演劇の舞台公演があります。PMF 以外に年間何回くらい鑑賞されていますか。おおよその回数をご記入ください

a. クラシック音楽の演奏会（PMF を除く） 7.58 回
b. クラシック以外の音楽ジャンルの演奏会・コンサート・ライブ 2.88 回
c. オペラ・バレエなど 1.75 回 d. 演劇・ミュージカル 2.31 回 e. その他 3.08 回

Q8. 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに近い番号に○印を付けてください。

	1. 強くそう思う	2. そう思う	3. どちらとも言えない	4. そうは思わない	5. 全くそうは思わない	無回答	無効回答
a クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	41.0%	44.5%	6.8%	1.1%	0.3%	6.2%	0.0%
b PMFが札幌で開催されていることを誇りに思う	61.7%	28.3%	3.5%	0.2%	0.1%	5.7%	0.5%
c PMFは敷居が高く身近には感じない	2.6%	5.0%	11.3%	40.3%	33.0%	7.8%	0.1%
d 私たちはPMFを通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	22.5%	49.3%	17.7%	1.8%	0.5%	8.1%	0.2%
e PMFの演奏会以外の教育・普及活動の内容は良く分からない	4.2%	25.9%	29.8%	24.4%	6.5%	9.0%	0.1%
f 私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる	11.1%	29.2%	28.5%	17.2%	4.8%	8.8%	0.4%
g 来年もPMFの演奏会に来たい	55.3%	32.1%	5.1%	0.2%	0.1%	7.1%	0.0%
h PMFをもっと多くの人に知ってもらいたい	46.5%	40.0%	5.6%	0.4%	0.0%	7.4%	0.2%
i 演奏会鑑賞に加えて、PMFに何らかの形でもっと関わってみたい	10.7%	25.8%	41.7%	11.4%	1.3%	8.8%	0.2%
j アカデミー生（オーケストラメンバー）と交流してみたい	8.1%	21.5%	41.1%	17.5%	2.6%	9.1%	0.1%
k 札幌市内にいても開催の状況が伝わってこない	3.5%	16.6%	22.3%	34.8%	11.0%	11.4%	0.4%
l PMFは良く知られた音楽フェスティバルだ	16.4%	46.8%	22.6%	5.5%	0.8%	7.7%	0.1%
m これからも長く続いてほしい	69.0%	22.8%	1.6%	0.0%	0.1%	6.4%	0.1%
n 私はクラシック音楽を良く聴く方だ	40.6%	32.3%	14.5%	5.2%	1.0%	6.4%	0.0%

F1. 性別

1. 男性	38.2%	2. 女性	56.4%	3. 回答保留	0.2%	無回答	5.1%	無効回答	0.1%
-------	-------	-------	-------	---------	------	-----	------	------	------

F2. 年齢階層

1. 小・中学生	2.4%	2. 高校生～19歳	2.5%	3. 20歳代	4.3%	4. 30歳代	4.9%	5. 40歳代	13.4%
6. 50歳代	21.0%	7. 60歳代	24.9%	8. 70歳以上	20.9%	無回答	5.6%	無効回答	0.0%

F3. 居住地

1. 札幌市内	77.8%	2. 札幌市近接市町	7.3%
3. 北海道内	3.9%		
道南	1.0%	道北	1.1%
道東	0.5%	道央(札幌市近接市町以外)	1.1%
4. 北海道外	3.0%	5. 国外	0.4%
無回答	7.6%	無効回答	0.0%

F4. 本日はユース・ウイング席をご利用ですか

1. 利用している	5.0%	2. 利用していない	62.2%	無回答	32.7%	無効回答	0.0%
-----------	------	------------	-------	-----	-------	------	------

2. リンクアップ・コンサート調査票 調査項目

Q1. 本日のコンサートにご来場の理由で最も当てはまるものは何ですか。該当する項目を一つお選びください。

a. 子どもが参加しているから	41.6%	b. 孫が参加しているから	4.0%	c. 兄弟／親戚が参加しているから	0.4%
d. 子ども／孫の通う学校が参加しているから	1.8%	e. 小学生の音楽教育に関心があったから	1.5%	f. PMFのコンサートだから	13.1%
g. PMFのパンフレット／広告を見て興味を持ったから	18.2%	h. 招待されたので	4.4%	i. 勤務先(学校・教育委員会等)の関係で	2.6%
j. その他	3.6%	無回答	1.5%	無効回答	7.3%

Q2. 本日のコンサートには

a. 一人であつた	33.9%	b. 友人・知人と	37.4%	c. 家族と	27.8%	d. 職場の同僚と	0.4%
無回答	1.1%	無効回答	0.4%				

Q3. これまで PMF の演奏会においてになったことはありますか。

a. ある	44.5%	b. ない	55.1%	無回答	0.4%	無効回答	0.0%
-------	-------	-------	-------	-----	------	------	------

Q3-SQ. 「ない」とお答えの方にうかがいます。PMFについて、あなたに当てはまる項目を一つお選びください。

a. これまで知らなかった・今回初めて知った	42.4%	b. PMFという名称だけは聞いたことがある	27.2%		
c. 演奏会に行ったことはないが、どのようなものか知っていた	29.1%	無回答	1.3%	無効回答	0.0%

Q4. 今年の PMF に関する情報でお目に留まった／お聞きになったことがあるものを、すべて○印でお選びください。

a. テレビ番組	23.7%	b. ラジオ番組	4.7%	c. 新聞記事	31.0%	d. 新聞広告・折り込み広告	16.4%
e. 雑誌記事・広告	6.9%	f. 掲示板・ポスター	32.8%	g. 広報さっぽろ	32.1%	h. PMFの公式ホームページ	16.8%
i. ソーシャルメディア・インターネット記事			5.5%	j. パンフレットやチラシなどの印刷物			31.4%
k. 街頭広告	7.7%	l. 地下鉄駅構内広告	20.1%	m. その他	6.6%		
無回答	15.3%	無効回答	0.0%				

Q4-SQ. この中で特に記憶に残ったものはありますか。項目とともに感想などをご記入ください。

a. テレビ番組	0.0%	b. ラジオ番組	0.0%	c. 新聞記事	2.3%	d. 新聞広告・折り込み広告	2.3%
e. 雑誌記事・広告	0.0%	f. 掲示板・ポスター	23.3%	g. 広報さっぽろ	2.3%	h. PMFの公式ホームページ	4.7%
i. ソーシャルメディア・インターネット記事			0.0%	j. パンフレットやチラシなどの印刷物			25.6%
k. 街頭広告	2.3%	l. 地下鉄駅構内広告	23.3%	m. その他	14.0%		

Q5. あなたのご友人（学校の同級生や会社の同僚、ご近所の方などを含む親しい方々）は PMF をご存知でしょうか。

a. (ほぼ)全員知っている	13.1%	b. 概ね3/4くらいは知っている	14.6%	c. 概ね半分くらいは知っている	22.3%		
d. 概ね1/4くらいは知っている	16.8%	e. (ほとんど)誰も知らない	21.5%	無回答	11.7%	無効回答	0.0%

性別

1. 男性	21.9%	2. 女性	73.7%	3. 回答保留	0.0%	無回答	4.0%	無効回答	0.4%
-------	-------	-------	-------	---------	------	-----	------	------	------

年齢階層

1. ～19歳	10.6%	2. 20～30歳代	10.9%	3. 40～50歳代	40.1%	4. 60歳以上	35.0%
無回答	2.9%	無効回答	0.4%				

居住地

1. 札幌市内	91.2%	2. 札幌市近接市町	2.6%	3. その他北海道内	0.4%	4. 北海道外	1.1%
無回答	4.4%	無効回答	0.4%				

3. 道内演奏会調査票 調査項目

Q1. PMFの演奏会に最初においでになったのはいつごろですか。

a. 1990年代	16.2%	b. 2000年代	12.8%	c. 2010年以降	16.5%	d. 昨年初めて	4.8%
e. 今年が初めて	45.8%	無回答	3.7%	無効回答	0.0%		

Q1-S Q 「今年が初めて」とお答えの方にお尋ねします。PMFについて初めてお知りになったのはいつ頃でしょうか。

a. 1990年代	12.6%	b. 2000年代	9.2%	c. 2010年以降	17.1%	d. 昨年初めて知った	3.8%
e. 今年になってから	54.1%	無回答	3.1%	無効回答	0.0%		

Q2. 本日の演奏会にはどのようなきっかけでおいででしょうか。最も該当する項目を一つお選びください。

a. PMFの演奏を聞きたいと思ったから	41.2%	b. 出演者や曲目に興味があったから	7.0%
c. 良い評判を聞いたから	2.6%	d. 毎年来ているから	7.4%
e. 友人・知人に誘われたから	9.9%	f. 家族に誘われたから	8.7%
g. 勤め先が応援しているから	2.1%	h. 招待券をもらったから	6.4%
i. 当日券があったから	0.4%	k. その他	5.7%
無回答	2.7%	無効回答	5.8%

Q3. あなたのご友人（学校の同級生や会社の同僚、ご近所の方などを含む親しい方々）はPMFをご存知でしょうか。該当する項目を一つお選びください。（江別・函館・幕別のみ）

a. ほぼ全員知っている	9.7%	b. 概ね3/4くらいは知っている	11.7%	c. 概ね半分くらいは知っている	21.4%
d. 概ね1/4くらいは知っている	22.6%	e. ほとんど誰も知らない	28.9%	無回答	5.4%
				無効回答	0.3%

Q4. 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに近い番号に○印を付けてください。

	1. 強くそう思う	2. そう思う	3. どちらとも 言えない	4. そうは思わ ない	5. 全くそうは 思わない	無回答	無効回答
a. クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	34.6%	45.4%	14.1%	2.2%	0.4%	3.1%	0.1%
b. PMFが北海道で開催されていることを誇りに思う	58.0%	32.6%	5.8%	0.6%	0.4%	2.4%	0.2%
c. 来年もPMFの演奏会に来たい	51.2%	37.1%	7.9%	0.2%	0.3%	3.1%	0.1%
d. 私たちはPMFを通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	25.3%	43.2%	22.3%	2.6%	1.3%	5.0%	0.4%
e. 私若い音楽家の育成に関わっていると感じる	20.2%	30.2%	30.9%	8.9%	4.2%	5.4%	0.2%
f. PMFをもっと多くの人に知ってもらいたい	47.8%	40.4%	6.6%	0.5%	0.3%	4.3%	0.1%
g. 私はクラシック音楽を良く聴く方だ	29.3%	33.6%	22.6%	8.5%	3.0%	3.0%	0.2%

Q5. 今回の演奏会はいかがでしたか。該当する項目を一つお選びください。

a. とても満足	55.3%	b. 満足	27.2%	c. 普通	3.0%	d. やや不満	0.2%	e. 不満	0.1%
無回答	14.0%	無効回答	0.2%						

Q5. 今回の演奏会の入場料はいかがでしたか。該当する項目を一つお選びください。（苫小牧のみ）

a. とても高い	3.5%	b. 高い	1.8%	c. ちょうど良い	62.2%	d. 安い	18.6%	e. とても安い	6.5%
無回答	7.4%	無効回答	0.0%						

性別

1. 男性	32.6%	2. 女性	64.9%	3. 回答保留	0.6%	無回答	1.8%	無効回答	0.0%
-------	-------	-------	-------	---------	------	-----	------	------	------

年齢階層

1. 小・中学生	9.4%	2. 高校生～19歳	10.9%	3. 20歳代	3.9%	4. 30歳代	4.4%	5. 40歳代	11.2%
6. 50歳代	13.8%	7. 60歳代	21.8%	8. 70歳以上	22.9%	無回答	1.6%	無効回答	0.0%

居住地

1. 市町内	68.3%	2. 市町外(周辺地域)	23.5%	3. 市町外(周辺地域外)	6.2%	無回答	2.1%	無効回答	0.0%
--------	-------	--------------	-------	---------------	------	-----	------	------	------

4. 首都圏演奏会調査票 調査項目

1. 今回の演奏会を何でお知りになりましたか。該当する項目をすべてお選びください。

a. テレビ・ラジオ・新聞・雑誌	7.8%	b. PMFのホームページ	24.7%	c. PMFのパンフレット	21.6%
d. PMF以外のインターネット	18.0%	e. 友人・知人・家族	26.5%	f. 街頭広告	1.4%
g. その他	20.1%	無回答	0.7%	無効回答	0.0%

2. 本日を含めて、首都圏でのPMF演奏会ご来場は何回目でしょうか。該当する項目を一つお選びください。

a. 初めて	50.9%	b. 2回目	10.2%	c. 3～4回目	17.0%	d. 5回以上	21.2%
無回答	0.7%	無効回答	0.0%				

3. 東京、札幌等での開催を含めて最初にPMF演奏会に来られたのはいつですか。該当する項目を一つお選びください。

a. 1990年代	12.7%	b. 2000年代	12.0%	c. 2010年以降	23.0%	d. 昨年初めて	4.2%
e. 今年が初めて	44.2%	無回答	3.5%	無効回答	0.4%		

4. 札幌でのPMFにおいでになったことはありますか。

a. ある	19.8%	b. ない	74.9%	無回答	5.3%	無効回答	0.0%
-------	-------	-------	-------	-----	------	------	------

5. 以下の項目について、あなたのお考えやお気持ちに最も近い番号に○印を付けてください。

	1. 強くそう思う	2. そう思う	3. どちらとも言えない	4. そうは思わない	5. 全くそうは思わない	無回答	無効回答
a. クラシック音楽の祭典としてPMFに親近感を感じる	36.7%	44.9%	12.0%	2.1%	1.1%	3.2%	0.0%
b. PMFが日本で開催されていることを誇りに思う	57.2%	33.9%	5.7%	1.1%	0.7%	1.4%	0.0%
c. 来年もPMFの演奏会に来たい	47.7%	37.1%	12.7%	0.4%	0.0%	2.1%	0.0%
d. 私たちはPMFを通じて世界の音楽文化の発展に寄与している	35.0%	41.3%	18.4%	2.1%	1.1%	1.8%	0.4%
e. 私も若い音楽家の育成に関わっていると感じる	27.6%	32.5%	25.8%	9.9%	2.1%	2.1%	0.0%
f. PMFをもっと多くの人に知ってもらいたい	47.3%	43.1%	7.1%	0.7%	0.4%	1.4%	0.0%
g. 私はクラシック音楽を良く聴く方だ	54.8%	27.9%	11.7%	3.5%	1.1%	1.1%	0.0%

6. あなたのご友人（学校の同級生や会社の同僚、ご近所の方などを含む親しい方々）はPMFをご存知でしょうか。

a. ほぼ全員知っている	1.4%	b. 概ね3/4くらいは知っている	4.6%	c. 概ね半分くらいは知っている	10.2%		
d. 概ね1/4くらいは知っている	20.1%	e. ほとんど誰も知らない	62.2%	無回答	1.4%	無効回答	0.0%

性別

1. 男性	58.0%	2. 女性	41.0%	3. 回答保留	0.0%	無回答	1.1%	無効回答	0.0%
-------	-------	-------	-------	---------	------	-----	------	------	------

年齢階層

1. 小・中学生	0.4%	2. 高校生～19歳	0.0%	3. 20歳代	9.2%	4. 30歳代	4.9%	5. 40歳代	13.8%
6. 50歳代	31.1%	7. 60歳代	24.0%	8. 70歳以上	14.8%	無回答	1.1%	無効回答	0.7%

居住地

東京公演

1. 東京都	53.6%	2. 神奈川・埼玉・千葉	33.0%	3. 茨城・栃木・群馬・山梨	1.9%	4. 首都圏外	6.7%
5. 海外	2.4%	無回答	1.4%	無効回答	1.0%		

川崎公演

1. 川崎市	20.0%	2. 東京・神奈川(川崎以外)・埼玉・千葉	77.3%	3. 茨城・栃木・群馬・山梨	0.0%	4. 首都圏外	2.7%
5. 海外	0.0%	無回答	0.0%	無効回答	0.0%		